

平成29年度

鹿児島県公立高等学校
入学者選抜学力検査結果の概要

この資料は、公立高等学校入学者選抜学力検査結果の概要をまとめたもので、受検者の学力の状況について、先生方や県民の皆さんに理解してもらうために作成したものです。

小学校、中学校、高等学校、それぞれの立場から、学習指導の改善充実を図るための資料として活用してください。

鹿児島県教育委員会

目 次

はじめに	2
1 出願状況等について（第一次入学者選抜の状況）	2
2 総得点について	3
(1) 受検者の得点分布	3
(2) 受検者（400点以上・360点以上・100点未満）、合格者（100点未満）の 年度別推移	3
3 各教科の平均点等について	4
(1) 各教科の平均点	4
(2) 受検者の平均点の年度別推移	4
(3) 各教科における受検者の得点分布及びそのグラフ	5
4 目安点をめぐる状況について	6
(1) 目安点未満の人数推移（過去5年間）	6
(2) 目安点未満の地区別状況（出身中学校所在地別）	6
(3) 過去5年間の基本的な「読み・書き・算」をめぐる状況	7
5 指導上の留意点（各教科共通）	8
(1) 中学校における取組	8
(2) 高等学校における取組	9
6 国語について	10
(1) 国語の総括	10
(2) 大問・小問別正答率と教科指導上の参考（国語）	11
(3) 国語の問題	12
(4) 国語の解答例	13
7 社会について	14
(1) 社会の総括	14
(2) 大問・小問別正答率と教科指導上の参考（社会）	15
(3) 社会の問題	16
(4) 社会の解答例	19
8 数学について	20
(1) 数学の総括	20
(2) 大問・小問別正答率と教科指導上の参考（数学）	21
(3) 数学の問題	22
(4) 数学の解答例	25
9 理科について	26
(1) 理科の総括	26
(2) 大問・小問別正答率と教科指導上の参考（理科）	27
(3) 理科の問題	28
(4) 理科の解答例	32
10 英語について	33
(1) 英語の総括	33
(2) 大問・小問別正答率と教科指導上の参考（英語）	34
(3) 英語の問題	35
(4) 英語の解答例	38

はじめに

平成29年度の公立高等学校入学者選抜学力検査は、3月7日、8日の両日にわたって、国語、社会、数学、理科、英語の5教科について行われました。

学力検査問題の出題に当たっては、学習指導要領に示された目標に則し、小学校から中学校までの間に学習したことのうち、主として基礎的・基本的な事項について、多様な出題方法等も工夫しながら、思考力・判断力・表現力などが検査できるように配慮しました。

平成29年度の公立高等学校への出願状況等や5教科の総得点及び各教科の得点等について、集計した結果は以下のとおりです。

1 第一次入学者選抜の状況について（推薦入学者選抜等に係る人数を含む。）

課程 学 科		全 日 制							定時制 計	全定合計
		普通	農業	工業	商業	家庭	総合・その他	計		
募集 定員	29年度	6,279	800	1,840	1,960	520	798	12,197	84	12,281
	28年度	6,322	800	1,840	2,000	520	838	12,320	84	12,404
出願 者数	29年度	6,219	573	1,857	1,741	478	523	11,391	49	11,440
	28年度	6,493	506	1,908	1,713	513	613	11,746	34	11,780
受検 者数	29年度	6,029	569	1,793	1,715	474	517	11,097	41	11,138
	28年度	6,256	496	1,840	1,673	507	602	11,374	29	11,403
合格 者数	29年度	5,501	530	1,658	1,654	455	502	10,300	36	10,336
	28年度	5,570	477	1,685	1,621	486	576	10,415	28	10,443
受検 倍率	29年度	0.96	0.71	0.97	0.88	0.91	0.65	0.91	0.49	0.91
	28年度	0.99	0.62	1.00	0.84	0.98	0.72	0.92	0.35	0.92

- ・ 表は、楠隼高校及び開陽高校の第3回・第4回入学者選抜に係る人数を含まない。
- ・ 普通には、理数科、文理科学科、文理科、情報科学科、体育科、音楽科、美術科、スポーツ健康科が含まれる。
- ・ 平成29年度の公立高等学校入学者選抜の受検者数は11,138人で、中学校卒業者の70.0%であった。
- ・ 受検倍率は、（受検者数）÷（募集定員）として算出した。

（参考）推薦入学者選抜、連携型中高一貫教育校入学者選抜及び帰国生徒等特別入学者選抜の状況

課程 学 科	全 日 制							定時制 計	全定合計
	普通	農業	工業	商業	家庭	総合・その他	計		
出願者数	505	17	111	173	38	22	866	1	867
受検者数	505	17	111	173	38	22	866	1	867
合格者数	472	17	111	173	38	21	832	1	833

- ・ 推薦入学者選抜には、自己推薦入学者選抜を含む。

（参考）第二次入学者選抜の状況

課程 学 科	全 日 制							定時制 計	全定合計
	普通	農業	工業	商業	家庭	総合・その他	計		
募集定員	779	270	182	306	65	281	1,883	28	1,911
出願者数	35	20	5	19	6	8	93	0	93
受検者数	35	20	5	19	6	8	93	0	93
合格者数	28	8	4	18	3	7	68	0	68

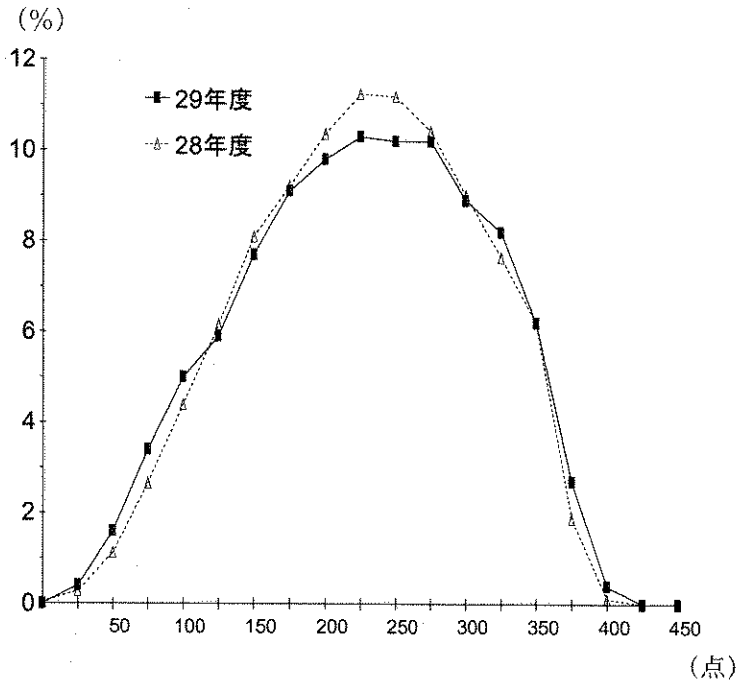
2 総得点について（全日制、定時制合計）

※ この項以降のデータは、すべて学力検査受検者についてである。

(1) 受検者の得点分布

- 平均点は前年度に比べて0.3点下がった。

平成29年度 238.4
平成28年度 238.7



得点分布																			平均点
0	25	50	75	100	125	150	175	200	225	250	275	300	325	350	375	400	425	450	
0.0	0.4	1.6	3.4	5.0	5.9	7.7	9.1	9.8	10.3	10.2	10.2	8.9	8.2	6.2	2.7	0.4	0.0	238.4	

※ 得点分布は%で示した。

(2) 受検者(400点以上・360点以上・100点未満)、合格者(100点未満)の年度別推移

年度	受 検 者							合 格 者			
	受 検 者 数	400点以上の人	400点以上の割合(%)	360点以上の人	360点以上の割合(%)	100点未満の人	100点未満の割合(%)	合 格 者 数	100点未満の人	100点未満の割合(%)	100点未満の受検者に対する割合(%)
	A	B	$\frac{B}{A} \times 100$	C	$\frac{C}{A} \times 100$	D	$\frac{D}{A} \times 100$	E	F	$\frac{F}{E} \times 100$	$\frac{F}{D} \times 100$
29	10,303	43	0.42	701	6.80	554	5.38	9,501	423	4.45	76.4
28	10,551	12	0.11	569	5.39	431	4.08	9,591	317	3.31	73.6
27	10,267	13	0.13	436	4.25	520	5.06	9,525	379	3.98	72.9
26	10,760	35	0.33	550	5.11	641	5.96	9,797	452	4.61	70.5
25	11,029	15	0.14	489	4.43	579	5.25	10,038	415	4.13	71.7

3 各教科の平均点等について（全日制、定時制合計）

(1) 各教科の平均点

区分	課程・学科		総得点	国語	社会	数学	理科	英語
受 検 者	全 日 制	普 通	280.2	56.3	59.8	49.4	52.7	62.0
		専 門	190.1	43.8	41.4	30.5	33.1	41.4
		計	238.9	50.6	51.4	40.8	43.7	52.5
	定 時 制		105.9	33.6	22.5	12.3	15.0	22.5
	全 定 計		238.4	50.5	51.3	40.7	43.6	52.4
合 格 者	全 日 制	普 通	280.6	56.6	59.8	49.5	52.6	62.0
		専 門	193.6	44.5	42.1	31.1	33.7	42.1
		計	239.8	50.9	51.5	40.9	43.7	52.7
	定 時 制		113.2	36.6	23.9	13.1	15.7	23.8
	全 定 計		239.4	50.9	51.4	40.8	43.7	52.6

※ 普通には、理数科、文理科学科、文理科、情報科学科、体育科、音楽科、美術科、スポーツ健康科が含まれる。専門には、総合学科が含まれる。

(2) 受検者の平均点の年度別推移

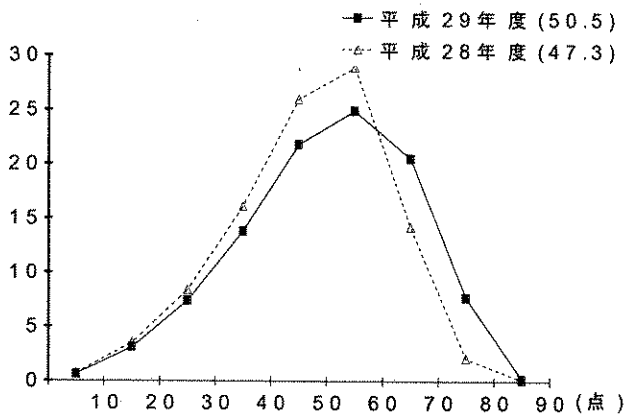
年度	総得点	国語	社会	数学	理科	英語
29	238.4	50.5	51.3	40.7	43.6	52.4
28	238.7	47.3	49.3	41.4	49.8	50.9
27	229.3	45.9	47.7	36.6	44.5	54.6
26	233.0	42.1	53.9	38.9	44.5	53.6
25	228.2	52.9	48.7	37.7	39.7	49.3

(3) 各教科における受検者の得点分布及びそのグラフ

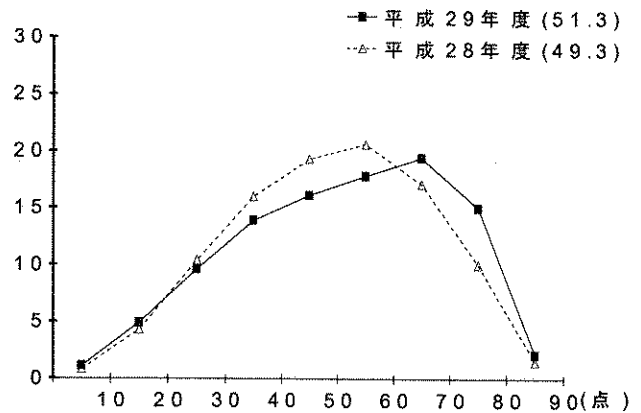
教科	得点分布								
	0～10	11～20	21～30	31～40	41～50	51～60	61～70	71～80	81～90
国語	0.6	3.1	7.4	13.8	21.8	24.9	20.5	7.7	0.2
社会	1.1	4.9	9.6	13.9	16.1	17.8	19.4	15.0	2.1
数学	5.2	10.6	15.7	18.0	18.5	16.5	10.2	4.7	0.7
理科	2.9	10.3	15.2	17.2	17.2	15.8	11.8	7.5	2.2
英語	0.7	5.9	10.9	12.9	14.1	14.9	17.0	18.6	5.1

※ 得点分布は%で示した。

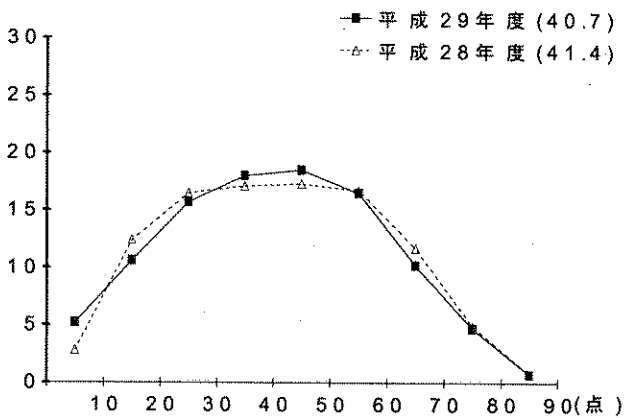
ア 国語



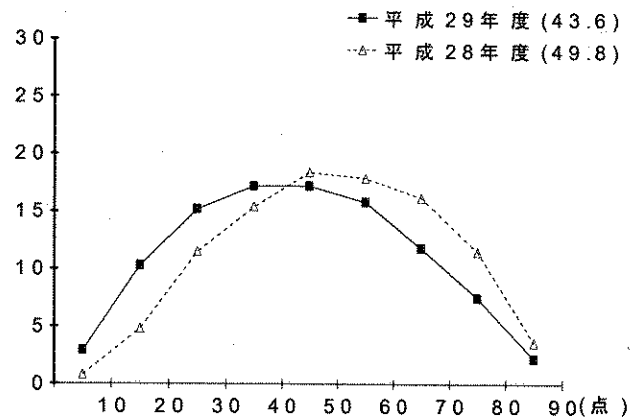
イ 社会



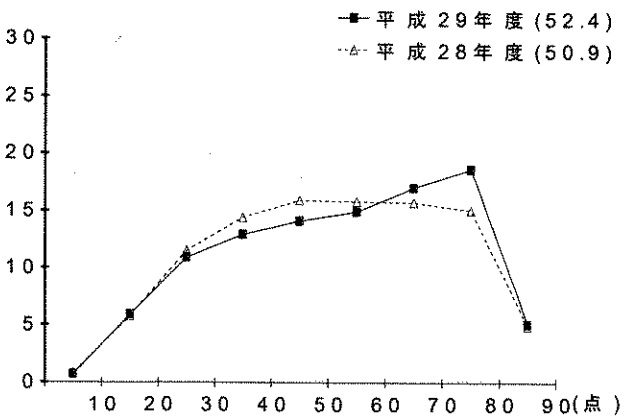
ウ 数学



エ 理科



オ 英語



() 内は平均点

4 目安点をめぐる状況について

(1) 目安点未満の人数推移（過去5年間）

単位 人

教科等	年度	平成29年度	平成28年度	平成27年度	平成26年度	平成25年度
国語		238(2.3%)	288(2.7%)	236(2.3%)	452(4.2%)	217(2.0%)
社会		404(3.9%)	354(3.4%)	521(5.1%)	359(3.3%)	391(3.5%)
数学		1,231(11.9%)	1,099(10.4%)	2,042(19.9%)	1,364(12.7%)	1,461(13.2%)
理科		964(9.4%)	377(3.6%)	516(5.0%)	736(6.8%)	877(8.0%)
英語		431(4.2%)	420(4.0%)	297(2.9%)	641(6.0%)	654(5.9%)
5教科総点が目安点未満の人数		408(4.0%)	280(2.7%)	353(3.4%)	478(4.4%)	399(3.6%)
目安点未満の教科を1教科以上持つ実人数		1,688(16.4%)	1,449(13.7%)	2,212(21.5%)	1,777(16.5%)	1,921(17.4%)
受検者総数		10,303	10,551	10,267	10,760	11,029

※ 目安点は、基礎的内容の設問の合計点であり、国語・社会・数学・理科においては、小学校教材及びその関連教材の内容を含んでいる。

(2) 目安点未満の地区別状況（出身中学校所在地別）

地区	目安点	国語	社会	数学	理科	英語	総得点
	受検者	18点	18点	18点	18点	18点	90点
鹿児島	3,941 人	1.7 %	2.2 %	7.7 %	6.2 %	2.7 %	2.3 %
南薩	797 人	2.1 %	5.5 %	14.3 %	12.9 %	4.8 %	5.1 %
北薩	1,324 人	3.1 %	4.5 %	14.7 %	10.6 %	4.8 %	5.3 %
姶良・伊佐	1,667 人	2.3 %	3.5 %	12.0 %	9.7 %	4.3 %	4.0 %
大隅	1,220 人	2.8 %	6.1 %	16.2 %	9.9 %	6.3 %	5.2 %
熊毛	341 人	2.6 %	6.2 %	14.1 %	14.4 %	5.3 %	5.0 %
大島	706 人	3.8 %	7.2 %	21.8 %	18.6 %	6.2 %	7.2 %
県全体	10,303 人	2.3 %	3.9 %	11.9 %	9.4 %	4.2 %	4.0 %

※ 鹿大教育学部附属中学校、私立中学校等からの受検者数307人については、地区別人数に含まない。

(3) 過去5年間の基本的な「読み・書き・算」をめぐる状況

【国語】

年 度	平成29年度			平成28年度			平成27年度			平成26年度			平成25年度		
読 み	警 笛	膨(らむ)	陳 列	巡(る)	驚 嘆	割 愛	貢 献	健(やか)	赴 任	設(ける)	悲 哀	帰 省	卓 越	募(る)	憩(い)
誤答者数 (人)	4,914	463	3,266	612	5,792	3,387	883	1,058	1,663	1,032	5,100	4,078	4,456	3,077	2,294
割 合 (%)	47.7	4.5	31.7	5.8	54.9	32.1	8.6	10.3	16.2	9.6	47.4	37.9	40.4	27.9	20.8

年 度	平成29年度			平成28年度			平成27年度			平成26年度			平成25年度		
書 き 取 り	寒 暖	険(しい)	奮 起	登 頂	群(れ)	順 延	季 節	慣(れる)	演 奏	報 告	蒸(し)	券 保 障	短 縮	導(く)	
誤答者数 (人)	3,214	1,339	6,820	2,342	1,794	5,497	1,520	2,834	2,844	2,421	3,970	4,379	1,963	1,743	1,577
割 合 (%)	31.2	13.0	66.2	22.2	17.0	52.1	14.8	27.6	27.7	22.5	36.9	40.7	17.8	15.8	14.3

【数 学】

年 度	平成29年度		平成28年度		平成27年度	
計 算 式	$83-45\div 9$	$0.2\times 5/8+3/16$	$8+54\div 6$	$2/3\times 9/8-1/4$	$21-3\times 9$	$7/8\div 5/4+1/10$
誤答者数 (人)	525	1,761	454	739	934	893
割 合 (%)	5.1	17.1	4.3	7.0	9.1	8.7

年 度	平成26年度		平成25年度	
計 算 式	$4\times 9-7$	$1/6+3/4\div 5/2$	$8\times 7+19$	$5/6-8/9\times 3/4$
誤答者数 (人)	602	1,710	640	937
割 合 (%)	5.6	15.9	6.7	10.4

5 指導上の留意点（各教科共通）

(1) 中学校における取組

＜総括＞ ー入学者選抜学力検査の結果を日頃の授業改善に生かすー

生徒の学力を向上させるためには、各中学校において生徒の実態を把握し、実態に応じた学習指導法の改善を行うことが重要である。

第一に、自校生徒の実態を把握する際には、本概要の「大問・小問別正答率と教科指導上の参考」や「全国学力・学習状況調査」、「鹿児島学習定着度調査」などの結果をきめ細かに分析し、どの教科や分野の正答率が高く、どのような内容を生徒が理解しているかを把握した上で、どのような誤答が見られるか、どの部分でつまづいているか等、課題についてもより具体的に明らかにする必要がある。

第二に、「入学者選抜学力検査」の結果から、基礎的・基本的な内容については概ね定着しており、学力の底上げが図られていると考えられ、成績上位層の割合も昨年度に比べて増加している。今後、更に生徒の思考力・判断力・表現力等を高めるためには、生徒が授業で主体的に思考したり、他者との協働的な学習の中で自分の考えを広げ深めたりするような学習活動を取り入れることが考えられる。本概要の「大問・小問別正答率と教科指導上の参考」や「鹿児島学習定着度調査」の【指導法改善に向けての参考例】などを基に言語活動を充実させるような学習指導法の改善を行う必要がある。また、「鹿児島ベーシック」等の教材を活用して生徒の家庭学習を充実させることや「かごしま学力向上プログラム」における授業公開への参加、「かごしま学力向上支援Webシステム」、「学力向上指針（学びの羅針盤）」等の積極的な活用をとおして授業を見つめ直すことも大切である。

【義務教育課が実施する学力向上のための取組】

- 鹿児島学習定着度調査：「基礎・基本」、「思考・表現」についての学習定着度調査
- 鹿児島ベーシック：基礎的な知識・技能を身に付けるための学習ガイド
- かごしま学力向上支援Webシステム：单元ごとの評価問題等の配信
- 学びの羅針盤：学力向上のための指導改善のポイントを明示
- かごしま学力向上プログラム：授業サポートプロジェクト，授業公開，
校内研究授業等の実施

(2) 高等学校における取組

＜総括＞ 一生徒の小中学校での学習経験を踏まえた適切な指導を

高校入学直後の生徒が、学習内容や学習方法についての中高ギャップに戸惑い、急速に学習への意欲を失う例が少なくないことがしばしば指摘されている。各高等学校においては、入学者が高等学校の学習内容に適応できるよう、課題がある教科及び分野については、早い段階で必要かつ適切な指導を計画的に実施する必要がある。「入学者選抜学力検査」での生徒の解答の状況を把握し、「大問・小問別正答率と教科指導上の参考」を基に自校生徒の学力の状況について基本的な知識・技能を活用して思考力・判断力・表現力等を発揮させる学習活動のための詳細な分析を行い、指導に生かしてほしい。

また、公開授業や研究授業の際に行われる小中高合同の教科研究会等では、学力検査問題を素材に小学校及び中学校との情報交換や指導法等に関する意見交換を行うなど連携を一層深めることが重要である。

その際、高校においても「平成28年度鹿児島学習定着度調査結果報告書」(p.42～44)における以下の3つの視点が有用であると思われる。

① 目標の明確化と学習課題の工夫

生徒の問いを生かした課題や、単元を通して追究する課題を設定するなどして、授業の目標を明確にする。

② 見通しと振り返り活動の重視

課題の解決に何が必要か、どんな工夫をすればよさそうかなど学習の見通しを立てる活動や、授業中の思考過程を整理したことなどを効果的な振り返り活動を、単元の中で計画的に位置付ける。

③ 主体的・協働的な学習活動の工夫

教科の特性や学習内容を踏まえて、どのような発言や取組を引き出すのかというねらいを明確にして活動を設定する。

6 国語について

(1) 国語の総括 ー文章理解にとどまらず、思考し表現する力の育成をー

大問1から大問3で出題した、基礎的・基本的な知識・技能を問う伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項からの出題は、全体の正答率が67.8%であり、当領域における学習については概ね定着が図られていると考えられる。誤りやすい漢字の読み書きについては、日常生活や学習の機会に辞書を活用し、語彙を正しく理解するよう意識付けさせることが大切である。

読むことと書くことに関する設問である大問2小問3 (I)、小問4、小問6及び大問4小問2、小問5において、全体的に正答率が低い結果であった。このことから、平成28年度鹿児島学習定着度調査の結果と同様に、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書くことや根拠を明確にして自分の考えを述べることについて課題があると考えられる。国語の学習や読書活動を通して様々な分野についての文章を読み、要約をしたり、自分の考えをまとめ相手に分かりやすく表現したりする学習を繰り返すことが大切である(特に、大問2小問4及び大問4小問5)。

大問3小問4は、空欄Ⅰ～Ⅲに適切な言葉を補い、本文についての先生と生徒の会話文を完成させる問題であったが、正答率はそれぞれ47.2%、51.5%、36.1%という結果であった。会話等の具体的な言語活動の場面を想定し、文章を読んで理解したことを基に思考し表現する力など、文章読解にとどまらない学習を継続してほしい。

(2) 大問・小問別正答率と教科指導上の参考(国語)

問	題 内 容	学年	県 正 答 率										
			0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100 %
1	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項		67.7										
1	(1) 漢字の書き取り(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)	小5, 小6	68.8										
	(2) 漢字の書き取り(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)	小5	87.0										
	(3) 漢字の書き取り(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)	小6, 小4	33.8										
	(4) 漢字の読み(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)	小6, 小3	52.3										
	(5) 漢字の読み(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)	中	95.5										
	(6) 漢字の読み(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)	中・小3	68.3										
2	書写(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)	中	68.3										
<ul style="list-style-type: none"> 小問1(1)「暖」の部首を「目」と書いたり、小問1(3)「奮起」を「奮気」や「雰気」と書く誤答が多く見られた。漢字の字形を大まかな印象で覚えていたり、熟語の語感から誤って連想しやすい漢字を書いたりしたことによるものと思われる。 小問1(4)「警笛」の正答率が52.3%と他の小問と比べて低く、誤答としては、「けいぶえ」、「けいしょう」など、「笛」の読みに関するものが多かった。また、「笛」は正しく読めているものの、「きてき」と書いた誤答も見られた。「警笛」と「汽笛」を混同したことによるものと思われる。 													
2	説明的な文章		50.9										
1	動詞の活用(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)	中2	57.4										
2	接辞詞の用法(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)	中1	80.4										
3	I 内容の理解(読むこと)・(書くこと)	中2	43.2										
	II 内容の理解(読むこと)	中2	69.6										
4	内容の理解(読むこと)・(書くこと)	中1	34.6										
5	内容の理解(読むこと)	中3	49.1										
6	内容の理解(読むこと)・(書くこと)	中2	50.2										
<ul style="list-style-type: none"> 小問1では、アやウを選択した誤答が多く見られた。単語の活用等の文法事項についての理解は、高等学校における学習に密接に関連するものであり、定着を図ることが必要である。 小問3の「欧米的な独立的自己観」について説明した文章の空欄を補充する問題では、文章中から言葉を抜き出して解答するIIの正答率が69.6%であったのに対して、自分で言葉を考えて補うIの正答率は43.2%と低い結果であった。また、小問4は、読み取った内容を65字以内にまとめて表現する問題であったが、問題文中から抽象的な表現を抜き出してつなげた解答も見られた。文章から読み取って理解した内容を、自分の言葉で指定された字数内にまとめ、分かりやすく表現する力を身に付けさせることが必要である。 小問6の条件作文では、自分がA, Bどちらの立場に立つかは明確にしているものの、その理由については言及が不十分なものが見られた。各単元において言語活動の充実を図りながら、自分が伝えたい事柄が明確に伝わるように書くことや根拠を明確にして考えを具体的に書くことなど、説得力を高めるための表現を工夫させることが必要である。 													
3	古典の文章		51.9										
1	歴史的仮名遣い(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)	中1	66.6										
2	内容の理解(読むこと)	中2	39.6										
3	内容の理解(読むこと)	中2	75.0										
4	I 主題の理解(読むこと)	中2	47.2										
	II 主題の理解(読むこと)・(書くこと)	中2	51.5										
	III 主題の理解(読むこと)・(書くこと)	中2	36.1										
<ul style="list-style-type: none"> 小問1の、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題の正答率は66.6%であり、誤答としては、ハ行を単純にア行に置き換えて、「やまひにふし」を「やまいこうし」とした誤答が見られた。また、小問2の内容理解の選択肢問題の正答率は39.6%と低く、傍線部直前の「花の時におくれて見ざりき」という記述を踏まえずにウを選択した誤答が多かった。傍線部だけで判断せず、前後の文脈を理解しながら文章を読む力を身に付けさせることが必要である。 小問4の、空欄を補充して先生と生徒の会話を完成させる問題では、特にIIIの正答率が36.1%と低い結果であった。指定された字数内で、解答の必要条件である「孝心」の意味をどのように表現すればよいか苦心した結果と思われる。日頃からの国語の学習や読書を通してさまざまな古典作品に触れ、古人のものの見方や考え方を理解し、古典に対する関心・意欲を高めさせることが必要である。 													
4	文学的な文章		54.2										
1	内容の理解(読むこと)	中1	80.1										
2	内容の理解(読むこと)・(書くこと)	中2	47.9										
3	心情の理解(読むこと)	中2	85.8										
4	心情の理解(読むこと)	中2	75.3										
5	内容の理解(読むこと)・(書くこと)	中2	25.2										
<ul style="list-style-type: none"> 小問2では、登場人物の行動の描写から心情を読み取り、理由を40字以内で適切に説明する力をみだが、正答率が47.9%と5割に満たない結果であった。文章を読んで理解した内容を、解答に必要な要素を全て踏まえて指定字数内にまとめて表現する力を身に付けさせることが必要である。 小問5では、本文最終行に引かれた傍線部に至るまでの登場人物の内的な変化を説明する力をみだが、25.2%と全体で最も正答率が低かった。誤答として多かったのは、無解答や、傍線部直前の登場人物の発言を解答に引用し過ぎたために指定字数の大半を費やしてしまったりしたことによるものであった。設問の意図を理解する意識を持たせるとともに、場面や登場人物の設定に留意しながら、行動描写と心情を把握する力を身に付けさせること、まとめる力を身に付けさせることが必要である。 													

(注) 学年:当該設問に含まれる事項が初出する学年の意。

(注) ☆:目安点対象の要素を含むの意。

(3) 國語の問題 (著作権法に附つき、掲載は①、③とします。)

1 次の1・2の間に答えなさい。

1 次の一線部のカタカナは漢字に直し、漢字は仮名に直して書け。

- (1) カンタンの差が激しい一日。 (2) ケアしい山道を歩く。
 (3) 選手のスラキを促す。 (4) 電車が對錯を鳴らす。
 (5) 希望が膨らむ。 (6) 商品を陳列する。

2 次の行書で書かれた漢字のうち、楷書で書いたときと「くんの筆順」が変化しているものを一つ選び、記号で答えよ。

ア 任 イ 均 ウ 慣 エ 銓

3 次の文章を読んで、あとの1・4の間に答えなさい。

伊予国松山の城下の北に山越といふ所あり。この所に十六日桜として、毎年正月十六日には満開して見事なり。松山より花見とて群集す。予がかの國に遊びしは四月の頃なりしかば、花の時におくれて見ざりき。残り多き事なり。かの國の人にこの桜の由来を聞きしに、むかし、山越の里に老人有りけるが、年ごとに老いて、その上重きやまひにふし、頼み少くなりけるに、ただ、この谷の桜に先立ちて、花をも見ずして死なん事のみをなきて、今一たび花を見て死しなば、浮世に思ひ残す事もあらしなと立ちに聞こえければ、その子かなしみなきてこの桜の本の本に行きて、何とぞ我が父の死したまはざる前に花を咲かせたまはれと誠の心をつくして天地にいのり願ひけるに、その孝心、鬼神も感じたまひけん、一夜の間に花咲き乱れ、あたかも三月の頃のごとくなりける。この祈りける日、正月十六日なりければ、その後は今の世にいたるまでも、なほ、正月十六日に咲きけるなりとぞ。

(西遊記)による

(脚) 伊予国 現在の愛媛県。
 鬼神 天地の神々。

- 1 一線部②「やまひにふし」を現代仮名通りに直して書け。
 2 一線部①「残り多き事なり」の内容として最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。
 ア 十六日桜の花を見るために山越に滞在できる日は残っている。
 イ 十六日桜の花を見に山越を訪れた人々は名残惜しうである。
 ウ 山越の十六日桜の花はまだ散ることなくそのまま残っている。
 エ 山越の十六日桜の花を見られなかったのは残念なことである。
 3 一線部③「いのり願ひける」とあるが、何と祈ったのか。その最初と最後の三字をそれぞれ本文中から抜き出して書け。
 4 次は、本文について話し合っている先生と生徒の会話である。
 Ⅰ、Ⅱ、Ⅲに適當な言葉をつめて会話を完成させよ。ただし、Ⅰは本文中から十二字の言葉を抜き出し、Ⅱ、Ⅲはそれぞれざざわしい内容を考へて十五字以内の現代語で答へること。
 先生 「人々が十六日桜を見に来るのはなぜですか。」
 生徒 「はい。桜の由来が語られている部分にあるように、十六日桜は正月なのに、Ⅰ 満開になるからです。」
 先生 「そうですね。では、この桜はなぜ咲いたのでしょうか。」
 生徒 「はい。本文には、Ⅱ という父親の願いをかなえたといふ子が「誠の心」で祈り、その子のⅢ に神々が感心なさつたためであらうと書かれています。」
 先生 「それとおおりです。この十六日桜は、季子桜とも呼ばれ、現在でも多くの人々に親しまれているそうですね。」

国語解答例

大問	配点		小問		解答例		
1	14点		1		寒暖 険(しい) 奮起 けいてき みく(らむ) ちんれつ		
	12点						
	2点	2点					
	2点	2点					
	2点	2点					
	2点	2点					
	2	35点		2		工	
		8点		1			
		3点	2点			イ ウ I 他者や状況から切り離された独自の II 自分固有の特性を発揮する	
		8点	4点	3			
		8点	4点	4			
		5点		5			
		9点		6		(略)	
		3	18点		1		やまいにぶし 工
2点							
3点			3点	2		何とぞ、まはれ I あたかも三月の頃のごとく II 死ぬ前にもう一度桜の花が見たい III 親に参行をしたいと思う気持ち	
10点			3点	3			
4点			4点	4			
4			23点		1		ア 自分やチームのためになることを、真面目にコツコツと毎日続けて、チキンスを持つ
			2点	5点	2		
			4点	4点	3		ウ イ
			4点		4		
	8点			5		サッカーに情熱を注げる今の環境で、自分の夢や高い目標に向かって、今自分にできることを精一杯やろうという気持ち	

7 社会について

(1) 社会の総括 ー知識を関連付け、説明する力の育成をー

大問1（地理的分野）において、中間Ⅰ小問3や中間Ⅱ小問6は、複数の資料や地図を読み取り、説明する問題であった。どちらも6割を超える正答率であったが、読み取ったことを説明できていない答案が目立った。鹿児島学習定着度調査においても、説明を記述する問題に課題が見られることから今後の課題である。その改善のためには、中間Ⅰ小問5や中間Ⅲにおいて見られた誤答を踏まえ、考えをまとめたり、話し合ったりして知識・理解を深める授業を重視しつつ、地図・統計資料等を活用し、地理的事象の特色等を事実と関連付けて理解させることが重要である。

大問2（歴史的分野）において、教科書で学習する基本的な人物や出来事を正確に漢字で書く意識は高くなっているようである。中間Ⅰ小問2や中間Ⅱ小問2において見られた様々な誤答を踏まえ、授業では、歴史的事象を正しく理解させるために、単元ごとにその意味や特色、事象の関連を説明させたり、まとめる学習に取り組ませたりする必要がある。また、中間Ⅲ小問2においても、歴史的分野の学習の成果の上に公民的分野の学習が展開されていることや、社会的事象の特色等を事実と関連付けて理解させるように授業を工夫・改善する必要がある。

大問3（公民的分野）において、中間Ⅰ小問2や中間Ⅱ小問4において見られた様々な誤答を踏まえ、公民的分野の基本的な理解に努める必要がある。また、これまでに習得した地理的分野や歴史的分野との関連に留意し、学習する内容を地図帳や年表で確かめて、知識・理解を深める授業を重視しつつ、中間Ⅱ小問6や中間Ⅲにおいて見られた誤答を踏まえ、現代社会の諸課題や日常の社会生活に関する事項を説明させたり、自分の意見をまとめる学習に取り組ませたりすることが大切である。

(2) 大問・小問別正答率と教科指導上の参考(社会)

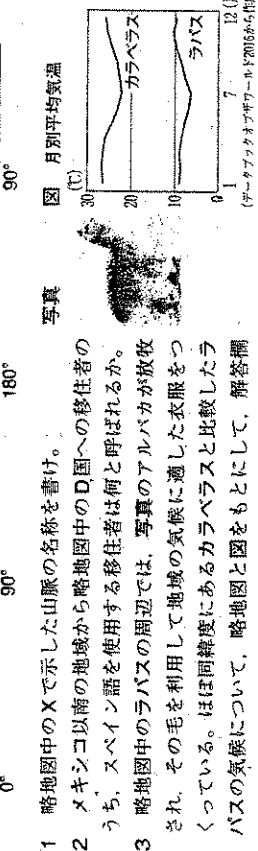
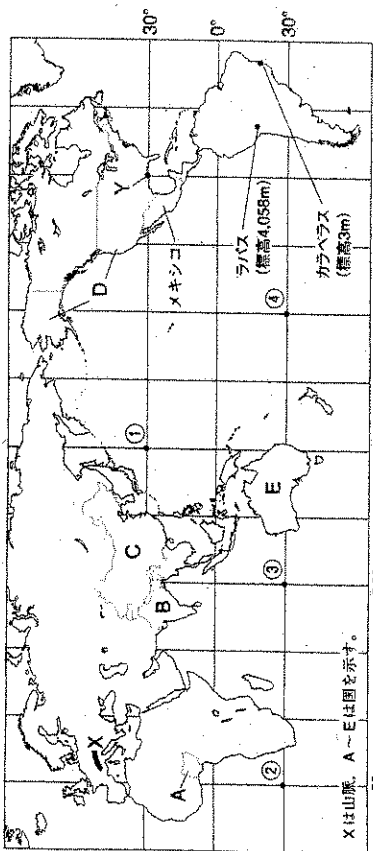
問 題 内 容	学年	県 正 答 率									
		0	10	20	30	40	50	60	70	80	90
1 地理的分野を主とする問題		60.2									
I 1 アルプス山脈	中1	64.6 ☆									
2 ヒスパニック	中1	67.9									
3 高山気候の特色	中1	70.0									
4 地球の反対側にあたる点	中1	70.0									
5 各国の産業のようす	中1	34.3									
6 (1) オーストラリアの移住者の出身地域の推移	中1	75.9									
(2) 多文化社会	中1	70.5									
II 1 排他的経済水域	中2	76.8 ☆									
2 フォッサマグナ	中2	56.0									
3 北関東工業地域の特徴	中2	50.4									
4 レアメタル	中2	86.8 ☆									
5 間伐	中2	23.3									
6 地図の比較	中2	63.9									
III 1 縮尺と元経	中1～2	45.6									
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間I小問1では、「ロッキー(山脈)」、「ヒマラヤ(山脈)」という誤答が目立った。 ・ 中間I小問3では、問題文をよく読まずに、図についてのみ解答し、略地図について読み取っていない誤答があった。 ・ 中間I小問5は、正答率が低く、エの誤答が多かった。サンバルトの、地図を使った位置の確認不足と、語句の理解不足と思われる。 ・ 中間II小問4は、全ての分野の中で最も高い86.8%の正答率であった。 ・ 中間II小問5は、地理分野で最も低い正答率であった。間伐の目的を正しく理解できていない誤答が多かった。 ・ 中間II小問6は、地図記号やデータを正しく読み取れていない答案もあった。 ・ 中間IIIでは、縮尺の意味を取り違えた誤答がかなり目立った。 											
2 歴史的な分野を主とする問題		50.8									
I 1 ① 松平定信	中2	61.2 ☆									
1 ② 執権	中1	44.2									
2 田沼意次のころの世界	中2	49.0									
3 正倉院の宝物	中1	66.2									
4 織田信長の政策	中1	83.2 ☆									
5 藤原氏の栄華	中1	53.7									
6 時代の並び替え	中2	63.1									
II 1 ① 日清戦争	中2	72.0 ☆									
1 ② サンフランシスコ平和条約	中2	59.0									
2 江戸時代末期の並べ替え	中2	37.8									
3 地租改正	中2	45.6									
4 三国干渉	中2	54.8									
5 サンフランシスコ平和条約の結果	中2	13.9									
III 1 東西ドイツの統一	中2	38.2									
2 バブル経済	中2	31.0									
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間I小問1①では、歴史上の出来事の正確な理解ができていない。「水野忠邦」や、全く異なる時代の人物を書いた誤答もあった。 ・ 中間I小問1②では、「將軍」の誤答が目立った。 ・ 中間I小問4は、資料をもとに正解を導きやすかったと思われ、歴史分野で最も高い正答率であった。 ・ 中間II小問2では、薩英戦争の時期が分かっていない誤答が多かった。 ・ 中間II小問5は、歴史分野で最も低い正答率で、「外交の復活」、「国際連合への回復」、「関税自主権の回復」という誤答があった。 ・ 中間III小問1では、X国をドイツと答えられず、また、「冷戦の終結」という誤答があった。 ・ 中間III小問2では、グラフを適切に判断できない答案が目立った。この時期の日本の経済状態の名称を明らかにできない答案が目立った。 											
3 公民的分野を主とする問題		54.9									
I 1 難民	中3	67.2 ☆									
2 衆議院の優越	中3	39.1									
3 個人情報保護制度	中3	82.3 ☆									
4 行政改革	中3	69.0									
5 社会権の背景	中3	30.6									
6 地球環境問題	中3	68.5									
II 1 公香	中3	60.4 ☆									
2 ワーク・ライフ・バランス	中3	57.0									
3 金融政策	中3	50.5									
4 消費者契約法	中3	10.2									
5 所得の再分配	中3	66.0									
6 電気小売り自由化	中3	62.1									
III 1 地域活性化	中3	47.4									
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間I小問2は、国政に関する基本的な設問であったが、様々な誤答が見られ、正答率は低かった。 ・ 中間I小問3は、公民分野で最も高い正答率であった。 ・ 中間I小問5では、貧富の格差など経済的な部分に触れていない誤答が多く、正答率が低かった。 ・ 中間II小問1では、「損害」、「被害」の誤答があった。 ・ 中間II小問4は、全ての分野の中で最も低い10.2%の正答率であり、「クーリング・オフ」、「消費者基本法」等の誤答が目立った。 ・ 中間II小問6では、問題の意図を正確に読み取れていない誤答があった。 ・ 中間IIIでは、インターネットではなく、資料に載っている「パソコン」と書いた誤答が多かった。 											

(注) 学年:当該設問に含まれる事項が初出する学年の意。

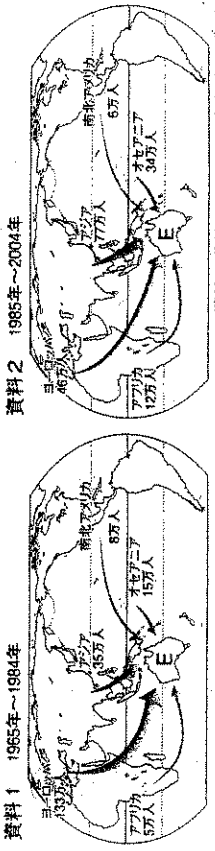
(注) ☆:目安対象の要素を含むの意。

(3) 社会の問題

1 次のI~IIIの問いに答えなさい。答えをよび問については一つ選び、その記号を書きなさい。
I 次の略地図を見て、1~6の問いに答えよ。

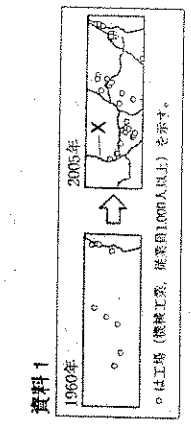


- 略地図中のXで示した山脈の名称を書け。
- メキシコ以南の地域から略地図中のD国への移住者のうち、スペイン語を使用する移住者は何と称されるか。
- 略地図中のラパスの周辺では、写真のアルパカが放牧され、その毛を利用して地域の気候に適した衣服をつくっている。ほぼ同緯度にあるカラベラスと比較したラパスの気候について、略地図と図をもとにして、解答欄の書き出しのことに続けて書け。
- 略地図中のY地点からみてちよと地球の反対側にあたるのは、略地図中の①~④のうちどれか。
- 略地図中のA~D国の産業のようすについて述べた文として、正しいものはどれか。
A 国では、機械工業の発達による製品が輸出のほとんどを占めている。
B 国では、ソフトウェアの開発などの情報技術産業が成長している。
C 国では、経済特区の設置された内陸部を中心に工業化が進んでいる。
D 国では、北緯37度以北のサンベルト地域で先端技術産業が発達している。
- 略地図中のE国に関して、(1)、(2)の問いに答えよ。
(1) E国への移住者の出身地域について、資料1と資料2を比較して読み取れる主な変化の特徴を書け。



(2) E国は多文化社会をめざしている。多文化社会とはどのような社会かを書け。ただし、文化ということばを使うこと。

- 略地図中の領海に接する海域()の名称と、その範囲の組み合わせとして正しいものはどれか。
ア (排他的経済水域 海岸線から200海里まで)
イ (排他的経済水域 海岸線から12海里まで)
ウ (公海 海岸線から200海里まで)
エ (公海 海岸線から12海里まで)
- 日本の国土は、略地図中の⑤()を境として、地形および地質的に分けられている。⑥を何と称するか。
- 略地図中の⑦は、北関東工業地帯を含む地域であり、資料1は⑧の工場分布の変化を示している。この変化に関する次の文の()に適することばを補い、これを完成させよ。ただし、資料1のXを明らかにして書くこと。

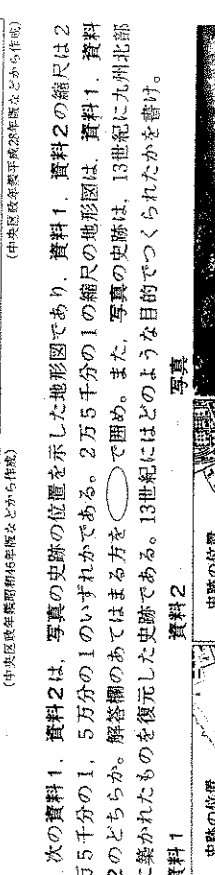


資料2

1960年と2005年を比較すると、工場は、
原材料や製品の輸送に便利な()
に建設されたことがわかる。

資料2は、略地図中の名古屋市のリサイクルを呼びかけるチラシの一部である。小型家電などに使われ、コパルトやマンガンのような天然に存在する量が少ない金属を総称して何と称するか。

- 略地図中の岐阜県は、人工林面積が広く、間伐が行われている目的を、解答欄の書き出しのことに続けて書け。
- 資料3、資料4は、略地図中の東京都中央区の一部を示した地図と、その地域の世帯数と人口をまとめたものである。この地域はどのように変化したか。資料3、資料4をもとにして書け。
資料3 昭和45年のようす
資料4 平成27年のようす



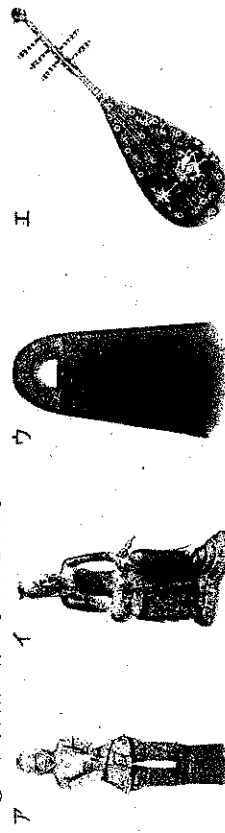
資料1 史跡の位置
資料2 史跡の位置
写真

III 次の資料1、資料2は、写真の史跡の位置を示した地形図であり、資料1、資料2の縮尺は2万5千分の1、5万分の1のいずれかである。2万5千分の1の縮尺の地形図は、資料1、資料2のどちらか。解答欄のあてはまる方を○で囲め。また、写真の史跡は、13世紀に九州北部に築かれたものを復元した史跡である。13世紀にはどのような目的でつくられたかを書け。

2 I 次のI~IIIの問いに答えなさい。答えを選ぶ問いについては一つ選び、その記号を書きなさい。次は、ある中学生が日本の歴史の上のできごとをA~Eの時代ごとに表にまとめたものである。1~6の問いに答えよ。

時代	できごと
A	⑥ 老中の地位についた田沼意次は、商工業者に株仲間をつくることを奨励した。その後に老中になった①は、寛政の改革を始めた。
B	東大寺が平城京の近くに建てられ、このころ天平文化が開花した。東大寺にある正倉院の宝物には、唐や新羅だけでなくインドなどの影響を受けたものもある。
C	城下の商人たちに市場の税を免除し、自由な営業を認め、盛らもっていた特権を取り上げる業市・楽座が行われた。
D	藤原氏は他の貴族を退けながら、藤原一族で朝廷の官職を独占し、その地位にともなう高い給与を受け取り、広大な荘園をもつようになった。
E	北条泰時が幕府の三代目の②の地位にあった時、御家人の権利や義務などの武士の慣習をまとめ、御成敗式目(貞永式目)を制定した。

- ①、②にあてはまる最も適当な人名とことばをそれぞれ漢字で書け。
- ③と最も近い時期のできごとについて述べた文として、最も適当なものはどれか。
 ア ポルトガルのバスコ・ダ・ガマが大西洋を南下し、アフリカ南端をまわってインドに到着した。
 イ 世界平和と国際協調のために国際連盟が設立され、国際紛争の平和的な解決がめざされた。
 ウ 北アメリカ東部の植民地の人々は、イギリス本国に対して立ち上がり、独立宣言を発表した。
 エ イエズ会の宣教師フランシスコ・ザビエルが鹿児島に上陸し、日本にキリスト教を伝えた。




資料


- ④の政策を推進したのは資料の人物である。この人物と最も関係の深いものはどれか。
 ア 急増する訴えに対し、裁判の基準となる公事方御定書を制定した。
 イ 天下を武力で統一しようとする意思を示す「天下布武」を掲げた。
 ウ 太閤検地を行い、全国の土地を石高という統一した基準で表した。
 エ 儒学を奨励する政治を推進する一方で、生類憐みの命を出した。
- ⑤に関し、藤原氏が朝廷の官職を独占し、大きな勢力をもつことができた理由について述べた次の文の⑤に適することばを補い、これを完成させよ。ただし、きさき、子どもということばを使うこと。
 藤原氏は、自分の娘を⑤ ことで、朝廷の官職を独占し、大きな勢力をもつことができた。
- A~Eを年代の古い順に並べよ。ただし、Dは解答欄に示してある。

II 次のI~IIIの問いに答えよ。答えは、ある中学生が「近代以降の日本や世界」についてまとめたカードである。1~5の問いに答えよ。


A ⑥ 閉国後の日本では、大阪や江戸で打ちこわしがおおきくおこった。



B 下の絵は、当時の東アジアのようすを表した風刺画である。日本は、甲午農民戦争をきっかけに、朝鮮に出兵し、①戦争が始まった。日本は勝利し、下関条約が結ばれた。



C 吉田茂内閣は、下の写真のように、アメリカなど48か国との間に②で平和条約を結び、条約の発効により、日本は③。また同時に、アメリカと日米安全保障条約を結んだ。

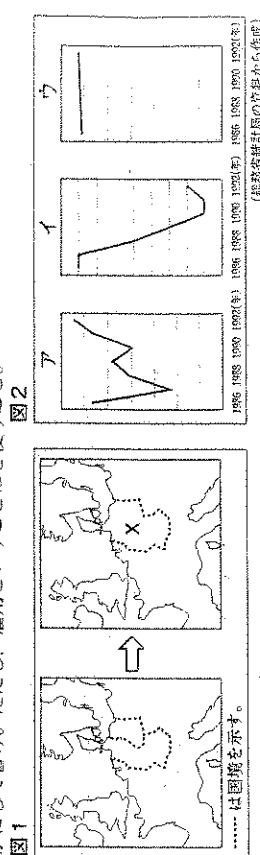


- ①、②、③にあてはまる最も適当なことばと都市名を書け。ただし、④は漢字で書くこと。
 2 ⑤に関し、年代の古い順に並べてあるものを選べ。
 ア 薩英戦争 → 安政の大獄 → 桜田門外の変 → 大政奉還
 イ 桜田門外の変 → 安政の大獄 → 安政の改革 → 大政奉還
 ウ 薩英戦争 → 安政の大獄 → 大政奉還 → 桜田門外の変
 エ 安政の大獄 → 桜田門外の変 → 大政奉還 → 大政奉還
- ⑥に関して、明治政府は、課税の基準として地価を定め、土地の所有者に地券を発行し、地租改正を実施した。このことにより、土地の所有者は税をどのようにならせたかを書け。ただし、税を納めるときに税率を明らかにして書くこと。
- ⑦の風刺画で、ア→ウの人物は、それぞれある国を表している。アは、⑧の文のできごとをおきた後、イが獲得した遠東半島をウに返還するよう、他国とともに要求した。このことを書すことばを漢字4字で書け。
- ⑨の文の⑨に適することばを補い、これを完成させよ。ただし、回復ということばを使うこと。

III 1980年代後半から1990年代初めまでにおきた世界と日本のできごとについて、1、2の問いに答えよ。

1 図1は、X国に関する地図である。図1から読み取れるX国でおこったできごとについて述べた次の文の⑩に適することばを補い、これを完成させよ。

1989年にベネズエラの墜機が取りはられ、その翌年、⑪された。
 2 図2のア→ウは、この時期の日本の「失業率」「全就業者数に占める第二次産業就業者数の割合」「総人口」のいずれかである。「失業率」を表すグラフは、図2のア→ウのどれか。また、選んだ理由について、詳細や地価が上がり続けたこの時期の日本の経済状態の名称を明らかにして書け。ただし、雇用ということばを使うこと。



(総務省統計局の資料から作成)

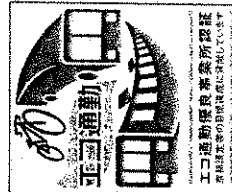
3 次は、ある中学校の社会科の授業で、生徒たちが班ごとに班ごとに関心をもったテーマについて調べたことをまとめたレポートの一部である。1～6の問いに答えよ。

1班 冷戦後に多発している地域紛争の影響 地域紛争により住んでいた土地を離れて周辺国に逃れた[]の保護が課題である。	2班 日本国憲法における国会のしくみ 両院の議決が異なった場合に、政治が停滞しないように衆議院の優越が定められている。
3班 情報化の進展とプライバシーの権利 プライバシーの権利をめぐる社会環境の変化から個人情報保護制度が設けられた。	4班 わが国の行政改革 1府12省庁に中央省庁の組織が再編されるなど、よりよい行政のあり方がめざされてきた。
5班 人権思想の発展と社会権 人が人間らしく生活できるように保障することも、国の役割と考えられるようになった。	6班 京都議定書からパリ協定へ 気候変動枠組条約の締約国会議では、各国の協力のあり方が課題となってきた。

1 []にあてはまる最も適当なことを漢字2字で書け。
2 ④のしくみについて、衆議院の出席議員の3分の2以上の賛成で再可決した場合に限り、衆議院の議決が優先して成立する事項はどれか。
ア 内閣総理大臣の指名 イ 予算の議決 ウ 法律案の議決 エ 条約の承認
3 ⑥について述べた文として、最も適当なものはどれか。
ア 行政機関のもつ情報の公開を行うことで、国民への説明責任を果たすことが定められた。
イ 公的機関だけではなく民間事業者にも、氏名や住所などの情報の保護が義務づけられた。
ウ 地方公共団体から独立した人や組織により、住民の苦情などを調査する制度が導入された。
エ 法的なトランプルの解決に必要な情報の提供を行うため、法テラスが全国に設けられた。
4 ⑥について述べた次の文の[]、[]にあてはまることは組み合わせとして、最も適当なものはどれか。
政府関係の組織や団体の[]を認め、経済活動への[]を行った。

ア (X) 国営化 Y 規制の強化 イ (X) 国営化 Y 規制の緩和
ウ (X) 民営化 Y 規制の強化 エ (X) 民営化 Y 規制の緩和
5 ④は、20世紀にはいり、国が国民に保障するべき権利であると考えられるようになった背景について述べる。この人権が、各国で保障されるようになった背景について述べた次の文の[]に適することを補い、これを完成させよ。
19世紀には経済活動の自由が強調され、資本主義経済が発達した結果、人々の間に[]状況が発生した。

6 ⑥に関して、資料は、2009年から国土交通省が、通勤手段についてある取り組みを行っている企業などに使用されているロゴマークである。その取り組みにより、解決がめざされた地球環境問題を挙げ、また、この取り組みにより通勤手段が具体的にどのようなものに変わり、そのことがどのような効果をもたらして地球環境問題の解決につながるかを説明せよ。



II 次は、ある中学生がある政党の公約の一部をまとめたものである。1～6の問いに答えよ。

国民の健康を守り、暮らしやすい社会をめざします。	労働環境を改善し、経済の活性化に努めます。
消費者の権利を保障し、国民の暮らしを守ります。	企業間の競争をうながし、産業の育成に努めます。

△△党の公約

1 ②に関して、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音などにより、地域住民の健康や生活環境がそこなわれることを何というか。漢字2字で書け。
2 ⑥に関して、近年重視されている仕事と生活の調和をめざす考え方を何というか。カタカナで書け。
3 ③に関して、図について述べた次の文の[]、[]にあてはまることは組み合わせとして、最も適当なものはどれか。
日本銀行は、供給する通貨量を増やすことで、物価を[]させ、[]からの脱却をめざしている。

ア (X) 上昇 Y デフレーション イ (X) 上昇 Y インフレーション
ウ (X) 下落 Y デフレーション エ (X) 下落 Y インフレーション

4 ④に関して、消費者が一方的に不利になる契約条項があった場合、その契約の解除ができることなどを定めた、2001年に施行された法律は何か。
5 ⑥に関して、政府には国民の所得の格差を調整する役割があるが、その内容として最も適当なものはどれか。

ア 低所得者には、税を多く負担してもらい、社会保障費の給付を多くする。
イ 低所得者には、税を少なく負担してもらい、社会保障費の給付を少なくする。
ウ 高所得者には、税を多く負担してもらい、社会保障費の給付を少なくする。
エ 高所得者には、税を少なく負担してもらい、社会保障費の給付を多くする。
6 ④に関して、資料は電力の小売が全面的に自由化されることで提供されるようになるプランの例である。資料を参考に、この取り組みについて述べた次の文の[]に適することを補い、これを完成させよ。

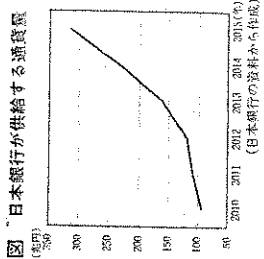
新規参入する電力会社が増え、企業間の競争がおこること
で、消費者にとっては[]ことが期待されている。

徳島県上勝町では、高齢の生産者が中心となり、身の回りの自然でとれる草花などを商品として出荷する事業を展開して注目されている。図と資料をもとにして、この事業について述べた次の文の[]、[]に適することを補い、これを完成させよ。ただし、[]には出荷先の特徴を、[]には事業の工夫を明らかにして書くこと。

地域の資源を商品として、主に[]に向けて出荷するために、生産者が[]ことで、注文にすばやく、的確に対応することが可能になった。

都道府県別の出荷先 (2015年) 資料 生産者が注文を受けるようす

生産者 (生産者の資料から作成)
情報集約 (生産者の資料から作成)



(4) 社会の解答例

社会解答例

大 問	配 点	問題区分	解 答 例		
①	31点	I	2点 1 アルプス (山脈)		
			2点 2 ヒスパニック		
			2点 3 (カラベラスと比較して) 高地にあるため月別平均気温が年間を通して低い。		
			2点 4 ③		
			2点 5 イ		
			2点 6(1) ヨーロッパからの移住者が減少し、アジアなどからの移住者が増加した。		
			2点 (2) さまざまな文化を互いに尊重しあう社会。		
	4点	III	(縮尺) <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td>資料1</td> <td>資料2</td> </tr> </table>	資料1	資料2
			資料1	資料2	
			(目的) 元の攻撃を防ぐため。		
②	31点	I	2点 1① 松平定信		
			2点 ② 執権		
			2点 2 ウ		
			2点 3 エ		
			2点 4 イ		
			2点 5 天皇のきさきにして、生まれた子どもを天皇にする		
	2点 6 B→(D)→E→C→A				
	31点	II	2点 1① 日清		
			2点 ② サンフランシスコ		
			2点 2 エ		
			2点 3 地価の3%を、現金で納めた。		
			2点 4 三国干渉		
2点 5 独立を回復した					
2点 3点	III	1 東西ドイツが統一			
		2 (記号) イ (理由) バブル経済により雇用が増え、失業率が下がっていることを表しているから。			
③	28点	I	2点 1 難民		
			2点 2 ウ		
			2点 3 イ		
			2点 4 エ		
			2点 5 貧富の差が拡大する		
			3点 6 (地球環境問題) 地球温暖化 (説明) 通勤手段が車から自転車や公共交通に変わることで、温室効果ガスの排出量が削減される。		
	2点 2点 2点 2点 2点 2点	II	1 公害		
			2 ワーク・ライフ・バランス		
			3 ア		
			4 消費者契約法		
			5 ウ		
			2点 6 料金が安くなる		
3点	III	(X) 大消費地 (Y) インターネットを活用する			

8 数学について

(1) 数学の総括 ー数学的な表現を用いて説明し、理解を深める活動の充実をー

授業の各場面では、数学的活動を通して用語や記号、数と式が表す意味を理解させる（大問1小問1(4)、大問3小問1）とともに、その後の学習においても学び直しの機会を作り、既習事項との関連を考える手立てを講じていきたい。基本的な計算、数量関係や図形の性質などの基礎的・基本的な事項については、小・中・高校の学校間の連携を図りながら、指導することが大切である。問題解決の場面では、与えられた条件や指示をしっかりと読み取らせる指導を徹底し、その上で、具体的な場合について式や図に表しながら考察させ（大問1小問4）、単なる計算技法の操作的な理解に留まらせない指導が大切である。特に、場合の数・確率を考える際には、樹形図などを使って考える習慣をしっかりと身に付けさせたい。

資料の活用の指導においては、用語の意味や使い方を正しく理解させることが大切である。授業では、データや図表から読み取ったことをもとに、どのような解釈ができるのか説明させたり、互いの説明やその根拠とする事柄について理解を深めさせたりする活動を充実させることが大切である。また、授業で学習したことを進んで日常生活に生かそうとする態度を育てたい。

関数の指導においては、具体的な事象の中から2つの数量の関係を捉え、それらの変化や対応を調べることを通して、関数の概念を理解させたり、グラフによって関数の変化や対応の特徴を理解させたりすることが大切である。授業の際は、日常生活における事象を数学と結び付けて考察したり、処理したりするなどの活動を取り入れた指導を充実させ、考察した内容を数学的な表現を用いて記述させる指導を徹底することが大切である。また、分かっていることや求めるものが何なのかをきちんと把握して考えさせるために、日頃から問題文をしっかりと読み取らせる指導を行うことも大切である。

図形分野の指導においては、基本的な図形の概念や性質を理解させるとともに、根拠を明らかにして論理的に考察させることが大切である。さらに、考えたことなどを数学的な表現を用いて説明し、伝え合う活動を通して、数学的に表現することのよさを実感させたい。今回、作図で出題した円の接線については、その性質が高等学校でも学習する内容であるので、授業で扱ったり、問題等で演習する際にどのように考えて接線が引けるかにも触れさせながら学び直しを行ってほしい。

(2) 大問・小問別正答率と教科指導上の参考(数学)

問	題 内 容	学 年	県 正 答 率									
			0	10	20	30	40	50	60	70	80	90
1	基本的な計算・知識		72.1									
	(1) 整数の四則計算	小5	94.9									
	(2) 分数と小数の計算	小6	82.9									
1	(3) 指数を使った整数の計算	中1	82.6									
	(4) 平方根	中3	51.3									
	(5) 多角形の内角の和	中2	76.9									
2	比例と反比例	中1	64.4									
3	一次関数	中2	51.6									
4	2乗に比例する関数の変域	中3	65.2									
5	平行線の性質	中2	79.3									
<ul style="list-style-type: none"> 小問1(1)はよくできていた。誤答例としては、$4.2(83-45)$を先に計算)、$77(45 \div 9 = 6)$とした?などが見られた。 (2)では誤答例として、$23/16(0.2 \times 5 = 10)$と計算)が非常に多かった。また、小数を分数になおす際に間違っている解答も多かった。 (3)では誤答例として、7, 25, 1など符号の計算ミスによるものが目立った。 (4)では誤答例として、$\sqrt{6}$だけや$\sqrt{36}$のように「平方根」と「平方した数」の区別がつかない誤答が目立った。 (5)は図もあったことで考えやすかったようである。 小問2では、反比例の意味を理解していない誤答が目立った。誤答例としては、$36x$や$72/x$が見られた。 小問3は教科書でも見かける問い方であるが、約半分の正答率だった。誤答例としては、$y = -5 + 11$, $y = -5a + 11$などが見られた。 小問4における誤答としては、$1 \leq y \leq 9$が非常に多く、$0 \leq x \leq 9$も見られた。 小問5はよくできていた。誤答例としては、55°, 85° などが見られた。 												
2	数学的な見方や考え方		35.0									
1	確率	中2	76.4									
2	最大公約数	小5	9.9									
3	投影図と底面の周の長さ	中1	31.0									
4	三角形の相似の証明	中3	40.2									
5	一次方程式	中2	20.5									
<ul style="list-style-type: none"> 小問1では、数えあげの段階で間違っている誤答が多かった。誤答例では、$5/36$が多かった。 小問2では、19本という誤答が非常に多かった。最大公約数そのものは理解しているが、問題をよく読まずに間違ったようである。 小問3では投影図の見方と投影図から展開図になおすことが難しいのか、正答率が低かった。πのつけ忘れによる誤答も見られた。 小問4ではほとんどの受験生が相似条件には気付いたようだが、等しい角の条件不足または根拠がないなど証明の論述が正しくない答案が非常に多かった。 小問5では、問題文をきちんと理解していないため、「300円安くなる」の部分について立式の段階で間違ってしまう答案が多かった。また、割合の考え方が定着していない誤答も多かった。 												
3	資料の活用とその応用		54.4									
1	相対度数	中1	61.8									
2	(1) 最頻値	中1	70.5									
	(2) 標本調査	中3	62.5									
3	代表値とその応用	中1	26.8									
<ul style="list-style-type: none"> 小問1では、誤答例として、11, 5が多く見られ、相対度数の意味を理解していない解答が多かった。 小問2(1)では、イトウに、100~200, 250~300と書くなど、階級と階級値の区別がつかない解答が見られた。 小問2(2)では、計算間違いが多く、誤答例は132, 432, 264などいろいろと見られた。 小問3では記号のみ選んだ解答が多く、その根拠となることについての記述の部分はほとんどが空欄であった。 												
4	関数とその応用		22.9									
1	速さと距離の関係	小6	54.4									
2	(1) 事象と関数	中3	30.8									
	(2) 一次関数のグラフ	中2	12.7									
	(3) 方程式の応用	中3	5.4									
<ul style="list-style-type: none"> 小問1は、問題文をよく読まずに40mと答えた誤答が多かった。 小問2(1)では、2乗に比例する関係が、理解できていない者が多く、比例定数を2としている誤答が多かった。 小問2(2)のグラフでは、右上がりの直線を描いた誤答が多く、空欄も目立った。 小問2(3)では、式を作れても、解の公式を利用する過程で根号の中の数が大きくなるため、計算ミスをする答案が見られた。空欄も非常に多かった。 												
5	図形とその応用		18.0									
1	円の接線の作図	中3	31.1									
2	(1) 三平方の定理の活用	中3	40.4									
	(2) 正三角形の面積	中3	14.3									
	(3) 回転体の体積	中3	3.1									
<ul style="list-style-type: none"> 小問1では、教科書に作図の順序も示されているが、順序を無視していきなり2本の接線をひき、後からA, Bの2点を書き加え、作図に用いた線が全く無い解答が多かった。 小問2(1)では特別な直角三角形であることに気づき、3辺の比を使うと正答できたと思われる。$\angle AOP = 90^\circ$ と考え、$2\sqrt{5}$とした誤答が多かった。 小問(2)では、まず、(1)を考える過程で、三角形PBAが正三角形であることに気付けば、(1)と同様に特別な直角三角形の3辺の比が利用できることに気付けたのではないと思われるが、正答率は低かった。誤答例としては、$4\sqrt{3}$が見られた。 小問(3)は、あえて図を与えず、問題文を読み、回転体をイメージする出題としたが、難しかったようである。利用する立体を書くところも空欄が目立った。 												

(注) 学年:当該設問に含まれる事項が初出する学年の意。

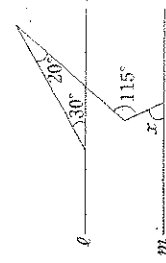
(注) ☆:目安点対象の要素を含むの意。

(3) 数学の問題

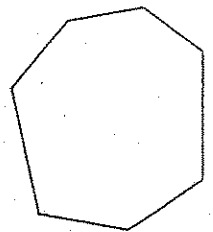
- 2 y が x に反比例しているものを下のア～ウの中から1つ選び、その記号を書け。また、そのときの y を x の式で表せ。
- ア 時速 60 km で走る自動車が、 x 時間走ったときに進む道のり y km
 - イ 1 本 120 円の毎ジュースを x 本買い、1000 円払ったときのおつり y 円
 - ウ 面積が 36 cm^2 の平行四辺形で、底辺の長さを $x \text{ cm}$ としたときの高さ $y \text{ cm}$

3 点 (2, 1) を通り、傾きが -5 の直線の式を求めよ。

4 関数 $y = x^2$ について、 x の変域が $-1 \leq x \leq 3$ のときの y の変域を求めよ。



5 右の図で $l \parallel m$ のとき、 $\angle x$ の大きさは何度か。



(5) 右の図のような七角形の内角の和は何度か。

1 次の 1 ~ 5 の問いに答えなさい。

1 次の (1) ~ (5) の問いに答えよ。

(1) $83 - 45 \div 9$ を計算せよ。

(2) $0.2 \times \frac{5}{8} + \frac{3}{16}$ を計算せよ。

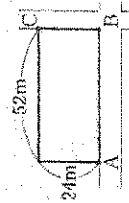
(3) $-4^2 + (-3)^2$ を計算せよ。

(4) 6 の平方根を根号を用いて表せ。

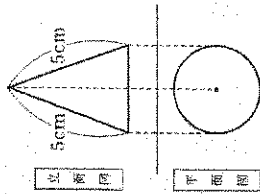
2 次の1~5の問いに答えなさい。

1 1つのさいころを2回投げ、1回目に出た目の数を一の位の数字とする2けたの整数をつくらるとき、その整数が7の倍数となる確率を求めよ。

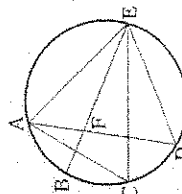
2 右の図のように、道路沿いに長方形の土地がある。この土地の道路に面したAB間とBC間に樹木を植える。等間隔なるべく少ない本数にするためには、樹木は何本必要か。ただし、3点A、B、Cの3か所には必ず樹木を植えるものとする。



3 右の図は、ある立体の投影図であり、平面図は円である。この立体の側面積が $15\pi \text{ cm}^2$ であるとき、底面の円の長さは何cmか。ただし、 π は円周率とする。



4 右の図の円において、 $\overline{AB} = \overline{BC} = \overline{CD}$ で、線分BEと線分ADの交点をFとするとき、 $\triangle ACE \sim \triangle FDE$ であることを証明せよ。



5 あるシャツを、下の表のように販売する店がある。

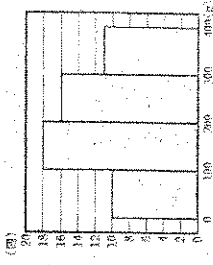
【通常2枚買う場合】	定価の合計金額から500円引き
【特別期間に3枚買う場合】	定価の合計金額から40%引き

このシャツを特別期間に3枚買う場合は、通常2枚買う場合よりも300円安くなるという。シャツ1枚の定価はいくらか。ただし、定価をx円として方程式と計算過程も書くこと。なお、消費税は考えないものとする。

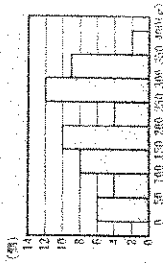
3

Yさんの家では、2つの畑A、Bで同じ種類のジャガイモを同時期に栽培し、収穫した。Yさんは、両方の畑で収穫したジャガイモの中から、それぞれ無作為に55個ずつを選び、その重さを調べた。次の1~3の問いに答えなさい。

1 右の図1は、畑Aのジャガイモについて階級の幅を100gにしてヒストグラムに表したものである。重さが300g以上400g未満のジャガイモの個数の相対度数を求めよ。



2 右の図2は、畑Bのジャガイモについて階級の幅を50gにしてヒストグラムに表したものである。次の(1) (2)の問いに答えよ。

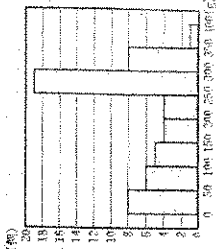


(1) Yさんは、図1と図2を比べることで、次のようなことがわかった。下のアには感ずることばを、イには数字を入れ、文を完成させよ。

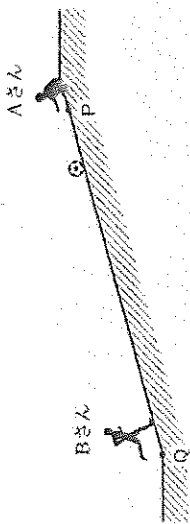
最も度数の多い階級の階級値をアといい、図1ではイ、図2ではウである。このことから、同じ資料でも階級の幅を変えると、ヒストグラムから読み取れる傾向が異なる場合があることがわかる。

(2) 畑Aから全部で1320個のジャガイモを収穫した。このとき、重さが150g以上200g未満であるジャガイモはおおよそ何個か推測せよ。

3 右の図3は、畑Bのジャガイモについて階級の幅を50gにしてヒストグラムに表したものである。2つの畑A、Bそれぞれから選んだ55個のジャガイモの重さの平均値は同じであった。重さの重いジャガイモがよりたくさん収穫できた畑はどちらの畑と考えられるか。解答欄のAとBのどちらかを○で開き、そのように判断した理由を、根拠となる代表値とその階級を用いて説明せよ。

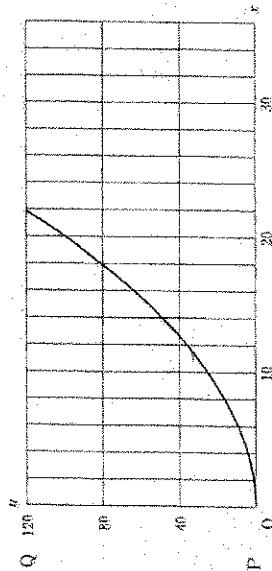


- 4 下の図のような、P地点からQ地点までの長さが120 mの坂がある。Aさんが、P地点に置いたボールから手をそっと離すと、ボールはQ地点に向かって転がり始め、最初の8秒間で16 m進んだ。また、Bさんは、Aさんがボールから手を離して6秒後に、毎秒4 mの速さでQ地点からP地点に向かってまっすぐに坂を進み始めた。次の1、2の問いに答えなさい。



- 1 Aさんがボールから手を離して10秒後には、Bさんは何m坂を進んでいるか。
- 2 Aさんがボールから手を離してx秒後のP地点からの距離をy mとして、ボールとBさんが進んだようすを考える。次の(1)~(3)の問いに答えよ。
- (1) ボールが坂を転がるときの時間と距離の関係は、距離が時間の2乗に比例している。ボールが進んだようすについて、yをxの式で表せ。

- (2) 下の図は、ボールが進んだようすをグラフに表したものである。Bさんが進み始めてからP地点に到達するまでのようすを表すグラフをかき入れよ。



- (3) ボールとBさんが出会うのは、Aさんがボールから手を離して何秒後か。ただし、xについての方程式と計算過程も書くこと。

- 5 右の図のように、円Oの外部に点Pがある。点Pから円Oに2本の接線をひき、接点をA、Bとする。次の1、2の問いに答えなさい。



- 1 点Pから円Oにひいた2本の接線を、定規とコンパスを使って作図せよ。ただし、2点A、Bの位置を示す文字A、Bも書き入れ、作図に用いた線は残しておくこと。

- 2 円Oの半径を2 cm、 $OP = 4$ cm とする。次の(1)~(3)の問いに答えよ。

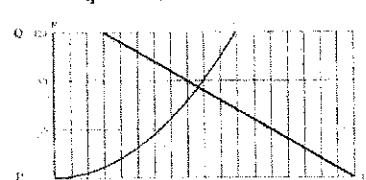
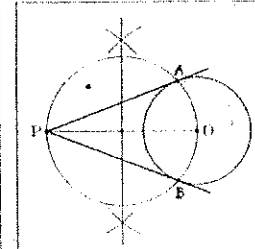
(1) 線分PAの長さは何 cm か。

(2) $\triangle PBA$ の面積は何 cm^2 か。

- (3) 点Oを通り線分ABに平行な直線を l とする。直線 l と接線PAとの交点をC、直線 l と円Oとの交点のうち、点Aに近い方の点をDとし、線分POと円Oとの交点をEとする。線分PC、CD、PEおよび点Aを含む \widehat{DE} で囲まれた部分を、直線 l を軸として1回転させてできる立体Qの体積は何 cm^3 か。ただし、はじめに立体Qの体積を求める過程で、利用する立体の名称をすべて書け。なお、円周率は π とし、求め方や計算過程も書くこと。

(4) 数学の解答例

数学解答例

大問	配点	小問	解答例
1	27点	3点 1(1) 3点 (2) 3点 (3) 3点 (4) 3点 (5) 3点 2 3点 3 3点 4 3点 5	78 $\frac{5}{16}$ -7 $\pm\sqrt{6}$ 900 (度) (記号) ウ (式) $(y =) \frac{36}{x}$ $y = -5x + 11$ $0 \leq y \leq 9$ 65 (度)
2	17点	3点 1 3点 2 3点 3 4点 4 4点 5	$\frac{1}{6}$ 4 5 20 (本) (式と計算) 6π (cm) △ACEと△FDEにおいて 通常2枚買う場合の値段は $2x = 500$ (円) △AEに対する内角角は等しいから 特別期間に3枚買う場合の値段は $3x(1 - 0.4)$ (円) $\angle ACE = \angle FDE$ したがって $AB = BC = CD$ より $\widehat{AC} = \widehat{BD}$ であるから $(2x - 500) \cdot 300 = 3x(1 - 0.4)$ $\angle AEC = \angle FED$ $2x = 800 = 1.8x$ $0.2x$ より、2組の角がそれぞれ等しいから $20x - 16x = 8000$ $\triangle ACE \cong \triangle FDE$ $x = 4000$ (答) 4000 (円)
3	14点	3点 1 4点 2(1) 3点 (2) 4点 3	0.2 3 ア 最頻値 (またはモード) イ 150 ウ 275 (おおよそ) 240 (個) (理由) 箱A、Bそれぞれの中央値がある階級は同2、同3から、箱Aは150g以上200g未満、箱Bは250g以上300g未満であり、箱Bの方が中央値が大きいから
4	14点	3点 1 3点 2(1) 3点 (2) 5点 (3)	16 (m) 2(3) $(y =) \frac{1}{4}x^2$  (式と計算) Bさんは、Aさんがボールから手を離して6秒後に板を進み始めるから $x > 6$ である ボールが x 秒間に進んだ距離は $\frac{1}{4}x^2$ (m) Bさんが $x - 6$ 秒間に進んだ距離は $4(x - 6)$ (m) ボールとBさんが出会うとき、それぞれの進んだ距離の和が120mであるから $\frac{1}{4}x^2 + 4(x - 6) = 120$ $x^2 + 16x - 576 = 0$ $x = \frac{-16 \pm \sqrt{16^2 - 4 \times 1 \times (-576)}}{2}$ $= \frac{-16 \pm 2\sqrt{640}}{2}$ $= -8 \pm 8\sqrt{10}$ $x > 6$ より $x = -8 + 8\sqrt{10}$ (答) $8 + 8\sqrt{10}$ (秒後)
5	18点	4点 1 3点 2(1) 4点 (2) 7点 (3)	 (利用する立体の名称) 円錐、半球 (半球は球でも可) (求め方や計算) 求める体積は、△POCを直線 <i>l</i> を軸として1回転させてできる円錐の体積から、中心角90°のおうぎ形ODEを直線 <i>l</i> を軸として1回転させてできる半球の体積を引いたものである △POCは、3つの角が30°、60°、90°の直角三角形より $OC = \frac{1}{3}OP = \frac{4}{3} = \frac{4\sqrt{3}}{3}$ (cm) 円錐の体積は $\frac{1}{3}\pi \times \left(\frac{4\sqrt{3}}{3}\right)^2 \times \frac{4}{3} = \frac{64\sqrt{3}}{9}\pi$ (cm ³) 半球の体積は $\frac{4}{3}\pi \times 2^3 \times \frac{1}{2} = \frac{16}{3}\pi$ (cm ³) ∴ $\frac{64\sqrt{3}}{9}\pi - \frac{16}{3}\pi = \frac{64\sqrt{3} - 48}{9}\pi$ (cm ³) (答) $\frac{64\sqrt{3} - 48}{9}\pi$ (cm ³)

9 理科について

(1) 理科の総括 ー学習内容の系統性を意識し、学習内容を身近に感じられる授業の工夫をー

基礎的・基本的な事項について、定着の図られていない内容が見受けられる。基本的な用語や公式はただ暗記するだけではなく、その意味を考えさせたり関連性のある内容と結びつけたりして、定着を図る必要がある。また、粒子領域（大問2中間I小問1）やエネルギー領域（大問5中間I小問1、小問3）では、基本的な内容であっても正答率が低くなる傾向があり生徒の苦手意識の高さがうかがえる。生活に関連性のある教材を用いて、生徒が学習内容を身近に感じ主体的に学習に取り組めるような工夫が必要である。

粒子領域では、大問2中間II小問3の化学反応を粒子モデルで表す問題の正答率が低かった。化学反応の学習では、粒子モデルで反応を表現させてから化学反応式を作成させるなど段階的な指導を行う必要がある。粒子モデルにより化学的な現象を捉える能力が高まれば、大問2中間II小問4のような思考力を必要とする問題に対しても積極的に取り組むことができる。

理科では、学習内容の系統性が非常に大事である。指導する教師は、小学校での学習を通して生徒がどのような知識を身に付けているのかを理解し、指導に生かす必要がある。さらに、予想・仮説を設定する場面や実験の計画を立てる場面、結果から結論を導く場面など、単元によってどの場面に時間をかけて指導するか指導計画をしっかりと立て、生徒の科学的に探究する能力を育んでほしい。

(2) 大問・小問別正答率と教科指導上の参考(理科)

問 題 内 容	学年	県 正 答 率										
		0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100 %
1 領域を融合させた問題		53.9										
1	天気図記号	中2	71.6									☆
2	再生可能エネルギー	中3	64.6									
3	古生代の示準化石	中1	53.6									
4	氷の体積と密度	中1	53.5									
5	葉、茎、根のつくり	中1	76.4									☆
6	電気分解	中2	60.2									
7	遺伝の規則性と遺伝子	中3	33.6									
8	音の到達距離	中1	66.7									
<ul style="list-style-type: none"> 小問2や小問8は、正答率が60%以上でエネルギー分野の基本的内容について理解できていると考えられる。 小問3では代表的な示準化石について問うたが、正答率は53.6%となった。教科書で代表的な例として記載されている化石については確実に定着を図りたい。 小問4では、水と比べて氷の体積が「小さく」なり、密度が「大きく」なるとする誤答が見られた。 小問7では、子の形質の比である「エ」の3:1を選ぶ誤答が多かった。何を問われているかが理解できていないと考えられる。 												
2 粒子領域の問題		40.5										
I 1	電離	中3	54.2									☆
2	電流の向きと電子の移動の向き	中3	52.4									
3	発生した気体の特徴	中1	47.4									
4	電流の流れる条件	中3	21.3									
II 1	原子を表す記号	中2	66.2									☆
2	水上置換の操作	中2	66.6									
3	反応のモデル	中2	35.9									
4	分解した物質の割合	中2	6.6									
<ul style="list-style-type: none"> 中間I小問1は、基本的な内容であるにも関わらず正答率が54.2%となった。代表的なイオンのイオン式や電解質の電離を表す式については、高等学校の学習で非常に重要な内容であり、確実に定着させておく必要がある。 中間I小問4では、中和反応後に電解質の水溶液となっていることが理解できていない誤答が見られた。小問1同様、電解質の水溶液の様子について、確実に定着させておく必要がある。 中間II小問3は、化学反応を粒子モデルを使って表現する問題であったが、正答率は低い。酸素を分子として表せていない誤答が多かった。 中間II小問4では、12gと12.5gから$12 \div 12.5 \times 100$を計算し、96%または4%という誤答が見られた。また、無解答も目立った。 												
3 生命領域の問題		54.2										
I 1	血液の成分	中2	44.5									
2	心臓と血液の循環	中2	20.1									
3	排出のしくみ	中2	61.2									
4	進化の証拠①	中2	76.5									
	進化の証拠②	中2	83.8									☆
II 1	実験操作の理由	中3	29.8									
2	微生物の呼吸	中3	53.9									
3	微生物のはたらき	中3	76.3									
<ul style="list-style-type: none"> 中間I小問2は基本的な内容であるが、正答率はかなり低い。血管や血液の名称が定着していないようである。血液の循環や各器官の役割と関連付けながら、どうしてそのような名称になるのかを確実に理解させたい。 中間I小問3、4は正答率が高く、よく定着している内容だと考えられる。 中間II小問1は教科書にも記載されている内容だが、正答率は低い。実験の目的をふまえ、行う操作の意味を確実に理解させたい。今回の実験に限らず、実験の各操作については、その意味を確実に理解させてから行わせることが重要である。 												
4 地球領域の問題		41.5										
I 1	石灰岩の性質	中1	53.9									☆
2	柱状図の名称	中1	37.5									
3	地層の広がり	中1	51.0									
4	柱状図の作成	中1	21.1									
II 1	星座早見の使い方	小4	20.3									
2	オリオン座が見えない理由	中3	78.8									☆
3	赤道での星の日周運動	中3	51.4									
4	金星の見え方	中3	32.8									
<ul style="list-style-type: none"> 中間I小問2では基本的な用語を問うたが、正答率は低い。教科書の中で強調されている用語だけではなく、文章中に出てくる用語も確実に定着を図る必要がある。 中間I小問4では、C地点とD地点の標高差から、D地点の凝灰岩の層をC地点の位置から20m下げた35~45mに示した誤答が見られた。このような内容も指導の中で取り扱い、地層の広がりを空間的に認識する力を育みたい。 中間II小問2は正答率が高く、星座、太陽、地球の位置関係によって星座の見え方が変化するという点については、よく理解できていると考えられる。 中間II小問4では、「イ」を選ぶ誤答が多かった。図2から図3の金星の位置を推測することが難しかったと考えられる。 												
5 エネルギー領域の問題		40.1										
I 1	回路図	中2	41.9									
2	電圧計	中2	65.2									☆
3	電力量	中2	39.0									
4	並列回路における電流と電力量	中2	27.4									
II 1	フックの法則	中1	56.8									☆
2	物体にはたらく水圧	中1	47.0									
3	浮力の大きさ	中1	61.6									
4	力のつり合い	中3	5.4									
<ul style="list-style-type: none"> 中間I小問1では、電圧計を回路に直列に接続した誤答が多かった。また、電圧計を回路の導線部分に対して並列に接続するような誤答も見られた。回路図をかく指導に加え、回路図を見ながら実際に回路を作成させるような指導も必要である。 中間I小問2の結果から、電流計や電圧計の使い方の定着が図られていないことがうかがえる。使い方を繰り返し指導し、確実に技能を習得させる必要がある。 中間I小問4では、②を「ア」の「より大きい」とする誤答が多かった。抵抗の大きさと電力量の関係が理解できていないと考えられる。 中間II小問2は基本的な内容であるが、正答率は47%となった。水中の物体にはたらく水圧について、十分に理解できていないと考えられる。 中間II小問3の正答率は61.6%と高い。基本的な浮力の計算についてよく理解できていると考えられる。 中間II小問4では、力の向きを正しく理解できず、糸の張力0.30Nから重力0.08Nを引き、0.22Nとする誤答が多かった。 												

(注) 学年:当該設問に含まれる事項が初出する学年の意。
(注) ☆:目安点対象の要素を含むの意。

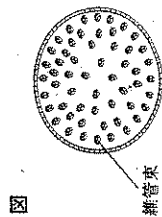
1

次の各問いに答えなさい。答えを番号の横に記号で答えなさい。

- 1 天気図に使われる天気記号のうち、「くもり」を表す記号をかけ。
 - 2 農林業から出る作物の残りかすや家畜のふん尿、木くずなどを活用し、そのまま燃焼させたり、微生物を使って発生させたアルコールやメタンを燃焼させたりして発電する方法を何発電というか。
 - 3 古生代の示準化石はどれか。
- ア フズリナ イ ビカリア ウ アンモナイト エ ナウマンゾウ
- 4 水を容器に入れて氷をつくるとき、氷と比べて水の体積と密度はどのようになるか。正しい組み合わせを表のア～エから選べ。

	体積	密度
ア	大きくなる	大きくなる
イ	大きくなる	小さくなる
ウ	小さくなる	大きくなる
エ	小さくなる	小さくなる

5 図は、トウモロコシの茎の断面を模式的に表したものである。トウモロコシの葉脈と根のつくりはどのようになっているか。正しい組み合わせを表のア～エから選べ。

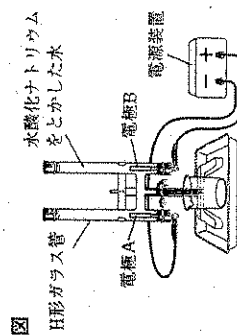


図

	葉脈	根
ア	網目状	主根と側根
イ	網目状	ひげ根
ウ	平行	主根と側根
エ	平行	ひげ根

6 次の文中の [a] にはまる気体の名称を書け。また、[b] にはまる数値を書け。

図のような装置を用いて、水酸化ナトリウムをとかした水を電気分解したところ、電極Aでは [a] が発生した。電極Bで発生する気体の分子の数は、電極Aで発生する気体の分子の数の [b] 倍である。



図

7 ゴールデンハムスターの染色体の数は44本である。毛色を茶にする遺伝子をB、黒にする遺伝子をbとすると、遺伝子の組み合わせがBbである個体がつくる精子について述べたものとして、正しいものはどれか。

- ア 染色体の数は44本で、Bをもつ精子の数とbをもつ精子の数の比は1:1になる。
- イ 染色体の数は44本で、Bをもつ精子の数とbをもつ精子の数の比は3:1になる。
- ウ 染色体の数は22本で、Bをもつ精子の数とbをもつ精子の数の比は1:1になる。
- エ 染色体の数は22本で、Bをもつ精子の数とbをもつ精子の数の比は3:1になる。

8 夜空で打ち上げ花火が開き始めてから、5.0秒後にその音が聞こえた。見ている場所から打ち上げ花火が開き始めた場所までの距離は何kmか。小数第1位まで答えよ。ただし、音の速さを秒速340mとし、風の影響は考えないものとする。

2

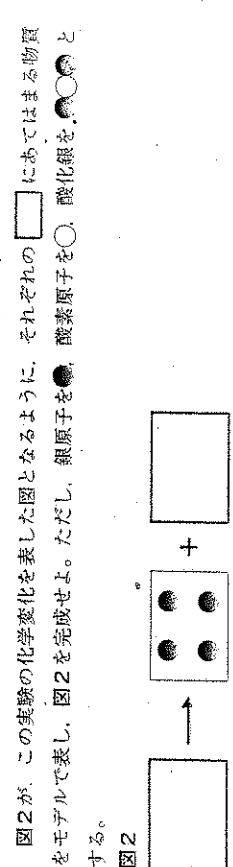
次のI、IIの各問いに答えなさい。答えを番号の横に記号で答えなさい。

- 1 亜鉛板と銅板をうすい塩酸に入れて電池をつくり、図のように電子オルゴールをつなぐところ、音が鳴った。
-
- 1 うすい塩酸には塩化水素がとけている。塩化水素が電離するようすを、化学式とイオン式を用いて表せ。
 - 2 銅板と電子オルゴールをつなぐ導線中の電流の向きと電子の移動の向きは、それぞれ図のA、イのどちらか。
 - 3 銅板で発生する気体について述べたものとして、正しいものはどれか。
- ア 石灰水を白くにごらせる気体 イ 空気に最も多くふくまれている気体
ウ 最も密度の小さい気体 エ 水でぬらした赤色リトマス紙を青色に変える気体
- 4 別のビーカーにうすい塩酸を入れ、これにうすい水酸化ナトリウム水溶液を加えてpHの値が7の水溶液をつくった。この水溶液に、新しい亜鉛板と銅板を入れて図と同じ装置をつくったところ、電子オルゴールの音が鳴り、電流が流れたことがわかった。電流が流れた理由を書け。

- 1 図1のように、かわいた試験管に酸化銀を入れ、加熱したところ酸素が発生した。表は、2.9g、5.8g、8.7gの酸化銀を、それぞれ酸素が発生しなくなるまでじゅうぶんに加熱した後、冷ましたときの試験管内の銀の質量を表したものである。

酸化銀の質量 [g]	2.9	5.8	8.7
試験管内の銀の質量 [g]	2.7	5.4	8.1

- 1 銀の原子を表す記号を書け。
- 2 この実験で、ガスバーナーの火を消すと、水がガラス管を逆流して試験管が割れることがある。これを防ぐために、どのような操作をしなければならぬか。
- 3 図2が、この実験の化学変化を表した図となるように、それぞれの [] にはまる物質をモデルで表し、図2を完成せよ。ただし、銀原子を●、酸素原子を○、酸化銀を●○と表す。



4 酸化銀12.5gをしばらく加熱し、途中で加熱をやめた。冷ましてから試験管内の物質の質量をはかったところ12.0gであった。酸化銀12.5gの何%が反応したか。

3

- 次のI、IIの各問いに答えなさい。答えを選ぶ問いについては記号で答えなさい。
- I 生命を維持するための必要な器官を集まって、動物のからだはつづらられている。
- 1 ヒトの血液の成分で、養分や体内の不要な物質などを運んでいるものはどれか。
ア 赤血球 イ 白血球 ウ 血小板 エ 血しょう
 - 2 図1は、ヒトの心臓をからだの正面から見たときの断面図である。図1 次の文中の **a**、**b**、**c** に「動脈」または「静脈」を書け。
血管Aは肺 **a** であり、部屋Bには **b** 血が流れている。
 - 3 ヒトの体内で生じた有毒なアンモニアを、無害な尿素に変えるはたらきをしている器官はどれか。
ア 胃 イ 肝臓 ウ すい臓 エ じん臓

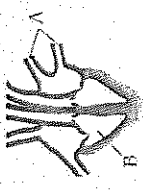


図1

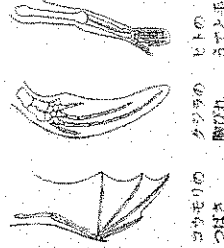
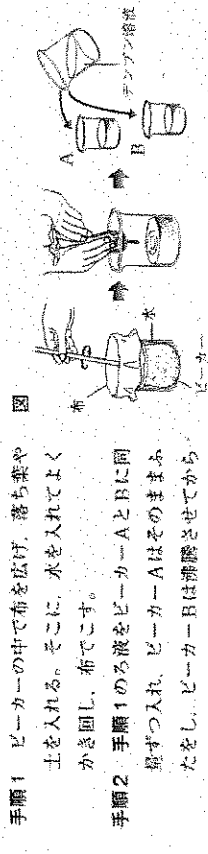


図2

- 4 図2は、セキツイ動物のからだの一部を模式的に表したものであり、これらの器官には基本的なつくりが共通がみられる。このことについて、次の文中の **c**、**d** にあてはまることばを書け。
- これらは、現在の形やはたらきは異なっているけれども、もとは過去のセキツイ動物の同じ器官であったものと考えられる。このように器官を **c** といひ、生物が長い年月をかけて代を重ねる間に変化する **d** の証拠の一つである。

- II 微生物のはたらきを調べるために、森の中の落ち葉や土を使って手順1～5の実験を行い、下の結果を得た。図は実験の一部を示したものである。



- 手順1 ビーカーの中で布を置き、落ち葉や土を入れる。そこに、水を入れてよくかき回し、布でこす。
- 手順2 手順1のろ液をビーカーAとBに同量ずつ入れ、ビーカーAはそのままふたをし、ビーカーBは沸騰させてからふたをす。
- 手順3 しぼりかしてから、ビーカーAとBに同量のデンプン溶液を加え、ふたをして密閉し、室温で3日間放置する。
- 手順4 ビーカーAとBの中の気体について、二酸化炭素の割合を気体検知管で調べる。
- 手順5 ビーカーAとBの溶液をそれぞれ試験管にとり、ヨウ素液を加えて、液の色の変化を調べる。

結果 二酸化炭素の割合は、ビーカーAがビーカーBより大きかった。また、ヨウ素液を加えた後の液の色は、ビーカーBのみ変化した。

- 1 手順2で、ビーカーにふたをするのはなぜか。
- 2 次は、実験の結果から考えられることについてまとめてある。a、b にあてはまることばを書け。

ビーカーAでは、微生物のはたらきで、a が分解されたと考えられる。また、ビーカーAの二酸化炭素の割合がビーカーBより大きかったことから、微生物は、b を行うことにより生命を維持していると考えられる。

- 3 微生物のはたらきを利用してつくられていない食品として、最も適当なものどれか。
ア キムチ イ ヨーグルト ウ カルメ焼き エ パン

4

- 次のI、IIの各問いに答えなさい。答えを選ぶ問いについては記号で答えなさい。
- I 図1は、ある地域の地形を等高線を用いて模式的に表したものであり、数値は標高を示している。また、図2は、図1のA～Cの地点でボーリング調査を行った結果をもとに、地層の重なりを表したものである。ただし、この地域では、地層の折れ曲がりや断層はなく、それぞれの地層は平行に重なっており、ある一定の方向にかたむいているものとする。

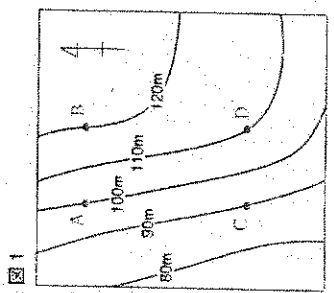


図1

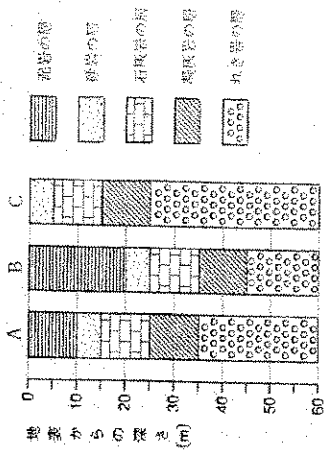


図2

- 1 ボーリング試料の中に石灰岩と思われれる岩石があった。この岩石が石灰岩であることを確かめる方法を書け。
- 2 地層の重なりを図2のように表したものを何というか。
- 3 この地域の地層がかたむいて低くなっている方向はどれか。
ア 東 イ 西 ウ 南 エ 北
- 4 Dの地点の地層の重なりを図2のように表したとき、凝灰岩の層はどこにあるか。解答欄の図に凝灰岩の層を を用いて示せ。

III 夜空を見上げると、恒星や惑星などの天体を観測することができる。

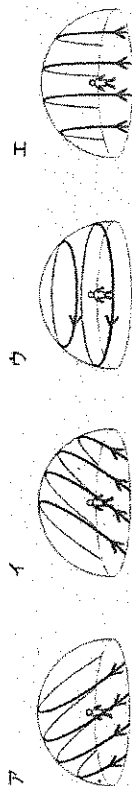
1 図1のような星座早見で南の空の星を観測する。このときの星座早見の使い方について述べた次の文中の [a]、[b] にあてはまることばを書け。

はじめに、月日の目もと [a] の目もりを合わせる。次に、「南」の文字を [b] にして頭の上にかざし、探す星の位置の見当をつける。

2 夏至のころになると、ほぼ一日中オリオン座を見ることができない。この理由を述べた次の文中の [] にあてはまることばを書け。

オリオン座は、夏季のころになると [] と同じ方向にあるから。

3 ア～エは北極、北半球、赤道、南半球のいずれかの地点における星の日間運動を模式的に表したものである。赤道での星の日間運動を表したものはどれか。ただし、矢印は星の動きを表す。



4 ある日、天体望遠鏡で金星を観測すると、図2のような形に見えた。図3は、静止させた状態の地球の北極の上方から見た、太陽、金星、地球の位置関係を模式的に表したものであり、この日の金星は図3の①～⑧のいずれかの位置にある。この後2か月間観測を続けていくと、金星の見え方はどのように変化していくか。最も適當なもののア～エから選べ。ただし、天体望遠鏡で見える天体の像は肉眼で見える場合とは上下左右が逆になっている。また、金星の公転の周期は0.62年とする。

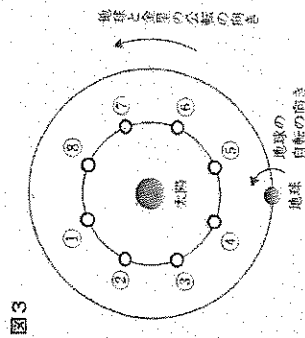


図2
* 望遠鏡で見た向きのまま示してある。

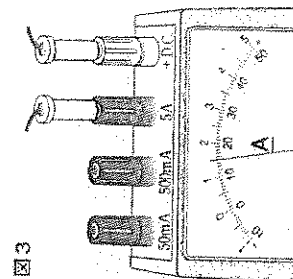
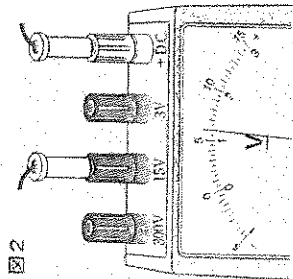
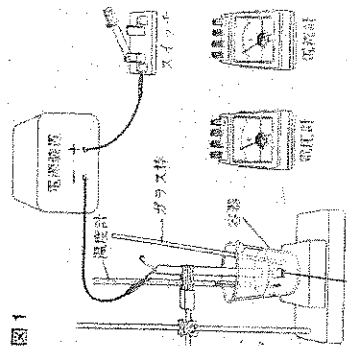
- A 金星の形は満ちていき、大きく見えるようになる。
- イ 金星の形は満ちていき、小さく見えるようになる。
- ウ 金星の形は欠けていき、大きく見えるようになる。
- エ 金星の形は欠けていき、小さく見えるようになる。

5

I 次のI、IIの各問いに答えなさい。答えを述べ問いについては記号で答えなさい。

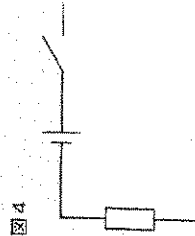
I 図1は、電熱線に電流を流したときの、水の温度上昇を測るための実験装置である。ただし、電圧計や電流計をつないでいる導線は省略している。

容器に水100gを入れ、電熱線aに加わる電圧と回路を流れる電流の大きさを一定にして5分間電流を流したところ、はじめ23.3℃であった水温は、29.3℃になった。このとき、電圧計と電流計の針は、それぞれ図2と図3のようになっている。



1 この実験では、電圧計や電流計をどのようにつないでいるか。次の電気回路図を用いて、図4の回路図を完成せよ。

電圧計	(V)
電流計	(A)

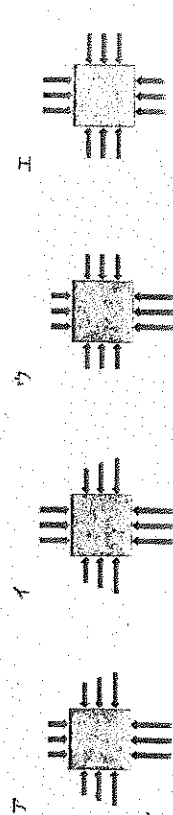
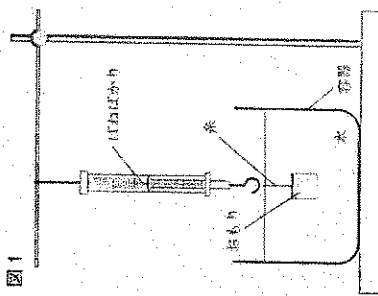


- 2 電熱線aに加わる電圧は何Vか。
- 3 電熱線aで5分間に消費された電力量は何Jか。
- 4 次に、電気抵抗の大きさが電熱線aの2.0倍である電熱線bを電熱線aに並列につなぎ、スイッチを入れて5分間電流を流した。次の文中の①、②について、正しいものはどれか。

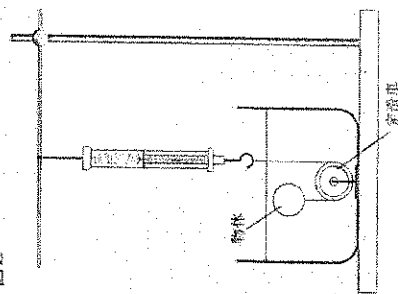
電熱線bに流れた電流の大きさは、電熱線aに流れた電流の大きさ①(Aより大きい、イより小さい、ウと等しい)。また、電熱線bで消費された電力量は、電熱線aで消費された電力量②(Aより大きい、イより小さい、ウと等しい)。

11 図1のように、糸のついた100gのおもりをばねばかりにつるし、おもり全体を水の中にしずめ、静止させた。このとき、ばねばかりの目もりは0.65Nを示した。ただし、質量100gの物体にはたらく重力の大きさを1Nとし、糸の質量や体積は考えないものとする。

- 1 ばねのひきは、ばねに加わる力の大きさに比例する。この関係を発見した人物名を書け。
- 2 図1のおもりにはたらく水圧のようすを正しく表したものはどれか。ただし、矢印の向きと大きさは、水圧がはたらく向きと大きさを表している。

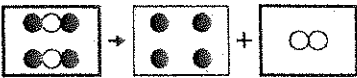
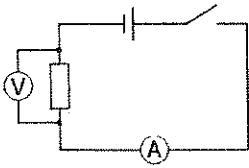


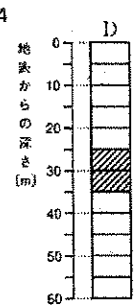
- 3 図1のおもりにはたらく浮力の大きさは何Nか。
- 4 図2のように、糸のついた8.0gの物体を定滑車に通してばねばかりにつなぎ、物体全体を水の中にしずめ、静止させた。このとき、ばねばかりの目もりは0.30Nを示した。物体にはたらくしている浮力の大きさは何Nか。ただし、定滑車は容器の底面に固定されており、滑車と糸の摩擦は考えないものとする。



(4) 理科の解答例

理科解答例

大問	配点	中間	小問	解答例	
1	18点		1	◎ バイオマス (発電)	
			2	ア	
			3	イ	
			4	エ	
			5	a 水素 b 2	
			6	ウ	
			7	1.7 (km)	
			8		
2	18点	I	1	$\text{HCl} \rightarrow \text{H}^+ + \text{Cl}^-$	
			2	電流の向き ア 電子の移動の向き イ	
			3	ウ	
			4	中和してできた水溶液は、電解質である塩化ナトリウムの水溶液だから。	
		II	1	Ag	
			2	ガスバーナーの火を消す前に、水の中からガラス管を出す。	
			3		
			4	58 (%)	
3	18点	I	1	エ	
			2	a 静脈 b 静脈	
			3	イ	
			4	c 相同器官	
				d 進化	
		3点	II	1	空気中の菌類や細菌類などの微生物がピーカーに入り、実験に影響が出ることを防ぐため。
				2	a テンブ b 呼吸
	2点		ウ		
4	18点	I	1	うすい塩酸をかける、	
			2	柱状図	
			3	イ	
			4		
		II	1	a 時刻 b F	
			2	太陽	
			3	エ	
			4	ウ	
5	18点	I	1		
			2	6.0 (V)	
			3	2700 (J)	
			4	① イ ② イ	
		II	1	フック	
			2	ア	
			3	0.35 (N)	
			4	0.38 (N)	



10 英語について

(1) 英語の総括 一様々な言語活動をとおして、技能を統合的に活用させる指導の充実を一

大問1（放送による聞き取りテスト）では、曜日や月などの基本的な語を聞き取って、確実に書き取れるようにする指導が今後も望まれる。また、音声による理解・表現の指導に関しては、今後も複数の技能を有機的に関連付けた言語活動に取り組みさせることが重要である（大問1小問5）。

大問2（理解力や表現力をみる問題）では、資料を基に必要な情報を読み取り、その内容について既習の語や表現を活用して適切に表現する力を身に付けさせる指導が重要である。また、言語の使用場面や言語の働きを意識して、適切な表現を用いて自分の考えを表現する力、文と文のつながりを意識しながら論理的かつ適切に表現する力を育成するために、授業においてコミュニケーションに重きを置いた発信の場面を多く設けるなどしてほしい。

大問3（英文の概要や要点を把握する問題）では、話の展開や大まかな流れを把握させる指導と併せて、文の前後を意識しながら正しく論理的に英文を読み進めていく力や、英問英答などの言語活動をとおして英文の内容を正確に読み取る力の育成に努めてほしい。

大問4（長文総合読解）では、長文の概要・要点の把握の指導と併せて、物語全体を通して登場人物の心情の変化や話の展開を正確に読み取る力育成が必要である。また、読み取ったことを基にして自分の考えなどを適切に表現させるなど、技能を統合的に活用させる指導の充実を今後も心掛けてほしい（大問4小問7）。

(2) 大問・小問別正答率と教科指導上の参考(英語)

問 題 内 容	学年	県 正 答 率										
		0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100 %
1 放送による聞き取りテスト		74.7										
1 対話の説明に合う絵を選択する問題	中1	94.3										☆
2 対話の概要を選択する問題	中2	94.6										☆
3 (1) 対話がなされている場所を選択する問題	中2	87.6										
(2) 対話を聞いて適切な英語1語を補充する問題	中1	52.0										☆
4 (1) 英語スピーチの内容に関する選択問題	中3	77.1										☆
(2) 英語スピーチの内容に関する選択問題	中3	69.9										
5 英語の質問に対する答えを英語で書く問題	中2	51.5										
<ul style="list-style-type: none"> 正答率は全体で約75%で、総じて「聞く」力はかなり身に付いていると思われる。 小問1, 2はいずれも94%台の正答率で対話の内容はかなり理解できていた。 小問3(2)の、聞き取った単語(曜日)を正確に書く問題は正答率が52%であった。Wednesdayは聞き取れたものの、スペルミスやWを小文字で書いた誤答が目立った。 小問5の正答率は昨年度よりも5ポイント下がった。週末に起こった「素敵な出来事」をイメージすることがやや難しかったと思われる。また、「What happened?」に対する答えとして主語を何にすればいいか戸惑った受験生もいたと思われる。 												
2 理解力や表現力をみる問題		51.8										
1 ① 対話の流れに合う口語表現を選択する問題	中1	88.4										
② 対話の流れに合う口語表現を選択する問題	中3	82.3										☆
2 ① 対話の流れに合う英文を補充する問題	中3	33.3										
② 対話の流れに合う英語1語を補充する問題	中3	32.9										
③ 対話の流れに合う英語1語を補充する問題	中1	68.2										
④ 対話の流れに合う英語1語を補充する問題	中2	14.2										
3 場面に応じた適切な発言を問う問題	中2	30.3										
4 まどまりのある英文を書く問題	中2	59.1										
<ul style="list-style-type: none"> 小問1の、対話が自然な流れになるように口頭表現を選択する問題は、昨年よりも正答率が上がり、①、②ともに80%を超えた。中学生にとって馴染みのある道案内の場面であったことや話の流れが理解しやすかったことが原因と考えられる。 小問2は、対話文中の空所に単語や口語表現を補充して対話文を完成させる問題。③を除いて正答率は低く、特に④のleaveは正答率が14.2%であった。「シャトルバスの運行」という情報から、comeやgo, startなどの誤答が目立った。 小問3は示された場面に応じた適切な発言を問う問題。「Can I ~?」の形で英文を書く誤答が目立った。 小問4は自分が好きな季節について英語で書く問題を出題した。鹿児島学習定着度調査でも過去に類似問題が出題されていたこともあり、取り組みやすかったと思われる。 												
3 英文の概要を把握する問題		54.1										
I ① 文脈に沿った英文を選択する問題	中1	82.8										☆
② 文脈に沿った英文を選択する問題	中2	80.2										
③ 文脈に沿った英文を選択する問題	中3	82.0										
II 1 本文の内容を表している英文を選択する問題	中3	37.9										
2 本文の流れに沿って空所を補充する問題	中2	48.7										
III (1) 英問英答の問題	中2	40.7										
(2) 英問英答の問題	中3	20.7										
2 英文の表題を選択する問題	中3	52.3										
<ul style="list-style-type: none"> 中間Iについては、①～③とも正答率が80%を超えた。和食をテーマとした対話文で、話の流れを把握しやすかったと思われる。 中間IIは1, 2ともに正答率が50%に満たず、話の要点をつかんだり、情報を正確に読みとったりする力に課題が見られた。2においては、英語6語を抜き出す問題だったが、「worked hard to realize my dream」という誤答が散見された。 中間IIIでは昨年度同様、英問英答の形式を2題出題した。どちらも正答率は低く、特に小問1(2)に関しては、問いに対して求められる答えを文中からの的確に探し出して適切な英語で表現することができていなかった。 												
4 長文総合問題		48.9										
1 3枚の絵が表す場面(段落)を選ぶ問題	中2	58.3										☆
2 文脈に沿った英語を選択する問題	中2	65.6										
3 文脈に沿った発話を補充する問題	中3	21.9										
4 文脈に沿うように登場人物の感情を選択する問題	中2	66.9										
5 主人公の気持ちの変化の理由を読み取る問題	中3	38.8										
6 本文の内容を表している英文を選択する問題	中3	69.9										
7 技能の統合的な活用力をみる問題	中3	19.4										
<ul style="list-style-type: none"> 小問1では昨年度同様、3つの絵がそれぞれ本文中のどの場面を表しているかを問うた。昨年度よりも正答率は上がったものの、60%程度であった。 話の流れに沿うように主人公の発話の一部を選択する小問2と登場人物の感情を選択する小問4は正答率がいずれも65%を超えた。 話の内容を表している英文を選択する小問6も正答率約70%であった。 小問3の、本文の流れに合うように主人公の発話を書く問題の正答率は約22%。誤答例としては「Why me?」や「Why we can't win?」などが目立った。 小問7の、試合翌日における主人公の心情を英語で書く問題の正答率は19.4%。キャプテンの経験に関する記述に留まり、今後の行動や意思に関する記述に相当する部分が欠落している解答が多かった。 												

(注) 学年:当該設問に含まれる事項が初出する学年の意。

(注) ☆ :目安点対象の要素を含むの意。

(3) 英語の問題

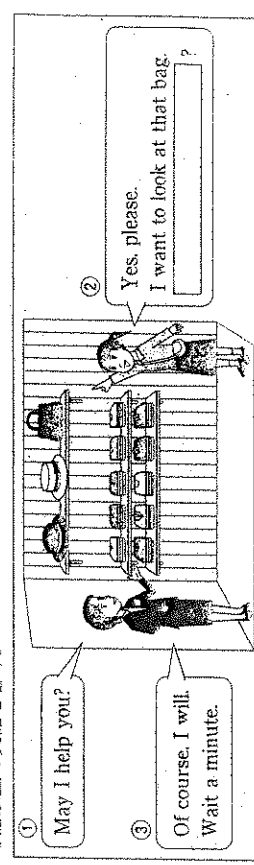
2 次は、あるイベントを紹介するホームページの一部と、それを見ている Miyuki と留学生の Emma との対話である。二人の対話がホームページの内容と合うように、①～④には5語以上の英語を、(②)～(④)にはそれぞれ英語1語を書け。

「山の日」制定記念フェスティバル ～山の魅力を体感しよう～

日 時：2016年8月11日(木)9時～17時
場 所：みどり公園わくわく広場
※無料シャトルバスあり (清山駅から30分おきに運行)

【山の写真展】 登山愛好家たちが撮影した 写真を多数展示します。	【森林散策ツアー】 森林に生息する動物に出会 えます。	【お食事サービス】 かしーライスをお召し上がり いただけます。
--	-----------------------------------	---------------------------------------

Miyuki : Emma, look at this. We should go to Midori Park next Thursday.
Emma : Oh, why?
Miyuki : A festival will be held* there. August 11 became a national holiday* called Mountain Day in Japan.
Emma : OK. What can we do there?
Miyuki : Well, let's see. ① taken by people who love climbing mountains. Also, we can walk in the forest. While we are walking, we can see animals that (②) in forests.
Emma : That's interesting.
Miyuki : We can also (③) curry and rice!
Emma : Nice. I want to go to the park, but it is far* from here. How can we go there?
Miyuki : A bus will (④) Kiyoyama Station every thirty minutes that day. We can take it for free*.
Emma : That's great. I'm looking forward to it.
注 be held 開催される national holiday 国民の祝日 far 遠い for free 無料で
下の絵において、①、②、③の順で対話が成り立つように、②の吹き出しの ② に4語以上の英語を書け。



4 あなたは英語の授業でスピーチをすることになった。次の ①～④ に3文以上のまとものある英文を書き、下のスピーチ原稿を完成させよ。ただし、同じ表現を繰り返さないこと。

Hello, everyone. Today, I'll talk about my favorite season.

Thank you.

1 聞き取りテスト 英語は2回ずつ放送します。メモをとってもかまいません。これから、Masao と Judy との対話を放送します。Masao が Judy に見せた写真として最も適当なものを下のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。



2 これから、Kevin と Tomoko との対話を放送します。その対話の内容として最も適当なものを下のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。
ア Tomoko の祖母の仕事 イ Tomoko のお気に入りの店
ウ Tomoko の新しい靴 エ Tomoko の祖母への贈り物
3 これから、Takeshi と ALT の White 先生との対話を放送します。対話を聞いて、次の二つの問いに答えなさい。
(1) 二人はどこで対話しているか、最も適当なものを下のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。
ア At a restaurant. イ At a bookstore. ウ At a hospital. エ At a school.
(2) 下の英文は、その対話をした日の夜、Takeshi が書いた日記の一部です。対話の内容に合うように、空所に英語1語を書きなさい。

I met Ms. White and talked to her today. She will go to Kyoto this weekend.
Next week, she will visit our class on () and tell us about her trip. I'm looking forward to her next class.

4 これから、Naoki が英語の授業で行ったスピーチを放送します。スピーチの後に、その内容について英語で二つの質問をします。その質問に対する答えとして最も適当なものを下のア～エの中からそれぞれ一つ選び、その記号を書きなさい。
(1) ア He sang songs with people there. イ He cleaned old people's rooms.
ウ He enjoyed talking with people there. エ He made breakfast for old people.
(2) ア He understands that he can be a big help to other people.
イ He understands that he can do many things without help.
ウ He understands that he can make old people happy by singing.
エ He understands that he can teach important things to old people.
5 これから、Bob と Kaori との対話を放送します。その中で、Bob が Kaori に質問をしています。Kaori に代わってあなたの答えを英文で書きなさい。書く時間は1分間です。

2 次の1～4の問いに答えなさい。
次は、Kazuya と ALT の Jones 先生との対話である。下の①、②の英文が入る最も適当な場所を対話文中の(ア)～(エ)の中からそれぞれ一つ選び、その記号を書け。

① Do you feel sick? ② Please tell me where it is

Kazuya : Hi, Mr. Jones. Where are you going?
Mr. Jones : Oh, Kazuya. I'm glad to see you here. I want to go to City Hospital, but I lost my way*. (ア)
Kazuya : Sure. Go along this street and turn left at the post office. You can find it on your right.
Mr. Jones : (イ) Thank you so much, Kazuya.
Kazuya : You're welcome. (ウ)
Mr. Jones : No. My friend got sick last night, and he is in the hospital now. I'm going to see him.
Kazuya : I see. (エ) I hope he will get better* soon.
Mr. Jones : Thanks.
注 lost my way 道に迷った get better (体調が)良くなる

3 次の I~III の問いに答えなさい。

I 次の Ami と ALT の Lisa 先生との対話である。対話文中の ①~④ に入
る最も適当な英文を下の A~E の中からそれぞれ一つ選び、その記号を書け。

Ami : Do you like Japanese food ?

Lisa : I love it. ①

Ami : Oh, really ? How did you learn how to make it ?

Lisa : ② I often use *katsubashi* to make it. Makurazaki is famous for *katsubashi*.

right ?

Ami : That's right. A company* from my town built a factory* in France to produce*

katsubashi. Did you know that ?

Lisa : No, I didn't. ③

Ami : In 2016.

Lisa : Wow ! People around the world will have more chances* to enjoy Japanese food.

建 company 会社 factory 工場 produce ~ ~を生産する chance(s) 機会

A How long does it take ?

I A Japanese friend taught me.

ウ I make *miso* soup every morning.

エ When was it built ?

II 次の、中学生の Daisuke が高校の体験入学について英語の授業中に行ったスピーチである。
これを読み、あとの問いに答えよ。

During summer vacation, I visited a high school in my city.

At the opening ceremony*, I enjoyed the music club's performance*. Then three students
spoke about their school. One of them said, "I love this school. I want to be a doctor to
help a lot of people, so I study hard every day." Each of them told us about the importance
of having a dream.

In the afternoon, I went to an English lesson. It was good because I could talk with
students from different junior high schools. We talked about many things in English. In
the lesson, the teacher said, "I decided to be an English teacher when I was a high school
student. I worked hard to realize* my dream. I like teaching English."

That day, I learned ④. I haven't decided what I will do in the future yet, but I
want to find my dream in that high school.

注 opening ceremony 開会行事 performance 演奏 realize ~ ~を実現する

I 本文の内容に合わせているものを下の A~E の中から一つ選び、その記号を書け。

A Daisuke visited a high school this summer to decide his future job.

イ Daisuke decided to become a junior high school English teacher.

ウ Daisuke enjoyed talking with high school students in the English lesson.

エ Daisuke listened to speeches made by three students of the high school.

2 ⑤ の中に入る最も適当な英語を本文中から6語で抜き出して英文を完成させよ。

III 高校生の Mika が書いた次の英文を読み、あとの問いに答えよ。

My grandfather lives alone. He likes to read and write letters, so he sometimes sends me
letters.

When I was seven years old, I wrote my first letter to my grandfather. Three days later,
I got a letter from him. In the letter, he said, "I was very happy to get a letter from you."
I was happy to know that, so I wrote my second letter. After that, we continued to
exchange* letters.

After I became a high school student, I sometimes got letters from him, but I had many
things to do, so I didn't write letters to him for a few months.

When I visited my grandfather last month, I found many old letters in a box. They were
all written by me. He said, "When I miss* you, I read your letters. Your letters always
make me happy." I said to him, "I haven't written letters recently". I'm sorry. "That's OK,
but please write letters to me again," said my grandfather with a smile. When I was going
home, I thought, "I didn't know that my letters were so important to him."

Now I write letters to my grandfather again. I feel happy when I get a letter from him.

注 continued to ~ ~し続けた exchange ~ ~をやりとりする
miss ~ ~を思い出すと思う recently 最近

1 次の (1), (2) の質問に対する答えを英文で書け。

(1) When did Mika write her first letter to her grandfather ?

(2) What did Mika's grandfather want her to do ?

2 本文の表題として最も適当なものを下の A~E の中から一つ選び、その記号を書け。

A Reading Old Letters from My Grandfather

イ Exchanging Letters with My Grandfather

ウ A Wonderful Story Written by My Grandfather

エ My Favorite Letter from My Grandfather

4 次の英文を読み、1~7の問いに答えなさい。([1] ~ [8] は段落番号を表している。)

[1] James was a second-year junior high school student. He was a member of the basketball team. He liked playing basketball, but he was not a good player, so he practiced harder than the other members every day. Even after the team finished practicing, he practiced alone and cleaned the gym. Also, he was always kind to the other members, and he often gave them words of encouragement.

[2] David was the team's captain. He was older than James. James respected him because he was a good captain and played basketball very well. After David's last game, the third-year students had a meeting to choose a new captain. After the meeting, David said, "James, you are the new captain." James was surprised and said, "Why me? [①] I'm not a good player. I can't be a good captain like you." David said, "You can do it."

[3] After James became captain, his team could not win any games. He was not happy. He thought, "David's team won many games. His team was good." He was very sad and always asked himself the same question, "[②]". However, he couldn't find the answer. He thought, "Our coach can answer my question."

[4] One day, James visited the coach in his office and said, "I don't know what to do to win games." The coach said to him, "This team isn't as strong as David's team, but you always do your best, and the other members do, too. This team is getting better. Let's practice more."

[5] From the next day, they practiced harder. James still practiced harder than the other members. When he saw some members who looked (③), he asked, "Are you all right?" or said, "You can take a break." He always said kind words to his team members. He took good care of them every day.

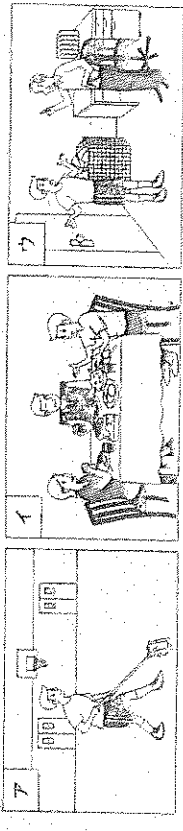
[6] James became a third-year student. He and the other members did their best. They won some games but lost many other games.

[7] Finally, James played his last game. It was a close game, but his team lost it. At the last meeting, James said to his team members, "I'm so sorry. I have been a bad captain. I couldn't make this team strong. I couldn't do anything for this team." One of the members said, "James, you have been a good captain. We know you have practiced harder than us. We learned from you that we should always try our best." Another member said, "Thank you for being kind to us. Your kind words helped us a lot." ④ James was happy to hear that. Every member was smiling at him. The coach nodded, and David was also there. "Now, you understand why we chose you as captain, James," said David.

[8] After James went home, he said to his parents, "We didn't win the last game, but a good thing happened today! I'm proud of my team members and myself." During dinner, James told his parents more about the last game. They looked very happy.

注 encouragement 励まし captain キャプテン respected ~ ~を尊敬していた
 coach コーチ office 練習場 take a break 休憩をすする lost ~ ~に負けた
 close game 接戦 nodded うなずいた I'm proud of ~ ~を誇りに思う

1 次のア~ウの絵は、本文のどの段落の場面を表しているか。それぞれ [1] ~ [8] の段落番号で答えよ。ただし、絵は話の展開どおりに並んでいないとは限らない。



- 2 [①] に入る最も適当なものを下のア~エの中から一つ選び、その記号を書け。
 ア You can't play again. イ You should do it.
 ウ I think so, too. エ I can't believe it.
- 3 [②] に、本文の内容に合うように英語を書け。

- 4 (③) に入る最も適当なものを下のア~エの中から一つ選び、その記号を書け。
 ア tired イ surprised ウ happy エ fine

5 下線部④の理由を50字程度の日本語で書け。

- 6 本文の内容に合っているものを下のア~オの中から一つ選び、その記号を書け。
 ア James could play basketball as well as David, so James didn't practice hard.
 イ After David's last game, James was chosen as the new captain of the team.
 ウ James worked very hard as captain, and the team won a lot of games.
 エ After James talked with the coach, he stopped practicing for a few months.
 オ James and the other members practiced hard, but they lost their last game.

7 次の、最後の試合の翌日における David と James との対話である。James に代わって [] に10語以上の英文を書け。英文は2文以上になってもかまわない。

David : Hi, James. You finished your last game. You played very well.
 James : Thank you very much.
 David : You really did a good job. How was your experience as captain?
 James : _____
 David : I hope you will do that.

(4) 英語の解答例

英語解答例

大問	配点	中間	小問	解答例
①	20点	3点 3点 2点×2 3点×2 4点	1 2 3 4 5	ウ エ (1) イ (2) Wednesday (1) ウ (2) ア My friends had a birthday party for me.
②	25点	2点×2 3点 2点 2点 2点 3点 9点	1 2 3 4	① ウ ② ア ① We can see many pictures ② live ③ eat / have ④ leave Will you get it for me I like summer the best. We have a long vacation in the season. We can enjoy swimming in the sea. So my favorite season is summer.
③	20点	2点×3 3点×2 2点×2 4点	I II 1 2 III 1 2	① ウ ② イ ③ エ エ the importance of having a dream (1) She wrote it when she was seven years old. (2) He wanted her to write letters to him again. イ
④	25点	3点 3点 3点 2点 4点 3点×2 4点	1 2 3 4 5 6 7	ア 1 イ 8 ウ 4 エ How can we win games ア 自分はだめなキャプテンだと思っていたが、他のメンバーが自分をキャプテンとして認めてくれていたから。 イ、オ It was hard, but I learned many things. I will keep doing my best.